



サウナ用ペレットストーブ ヴェネレ・エレクトリック

取扱説明書

この設置、使用、およびメンテナンスに関するマニュアルは設置後も大切に保管してください。取り付ける前に必ずこのマニュアルをよくお読みください。

ラミノックス社は、製品を改善するために、以下の文書に記載されている特性およびデータを予告なしにいつでも変更する権利を留保します。したがって、このマニュアルは第三者に対する契約とみなされません。

最新のマニュアルと図面は、Web サイト www.laminnox.com からダウンロードすることができます。

お客様各位、安全性、信頼性、性能の点で優れた製品を目指した技術経験と継続的な研究の結果である当社の製品をお選びいただきまして誠にありがとうございます。このマニュアルには、製品を最大限の安全性と効率性で使用できるようにするためのすべての情報と役立つアドバイスが記載されています。

重要な情報

この取扱説明書はメーカーによって作成され、製品を正しく使うために大事な情報が記載されています。製品の販売または譲渡の場合は、必ずこの取説が存在することを確認してください。取説に含まれる情報は、購入者および製品の設置、使用、保守点検などさまざまな立場で貢献するすべての人々に宛てられたものです。製品の設置、使用、メンテナンスを始める前に、このマニュアルに記載されている指示と技術情報をよくお読みください。この取扱説明書に記載されている指示を遵守することで、人や物の安全が保証されます。経済的な動作とより長い動作寿命を保証します。メーカーは、取扱説明書に記載されている設置、使用、メンテナンスの規定に従わなかったこと、製品または非純正スペアパーツの不正改造によって生じた損害については、一切の責任を負いません。製品の設置と使用は、製造元の指示に従い、欧州、国、地域の規制に従って行う必要があります。設置、電気接続、動作の確認、メンテナンス、および修理は、製品に関する十分な知識を持つ資格のある権限のある担当者のみが実行する必要があります。製品を木の壁や可燃物の近くに設置しないでください。正しく設置するには、「安全距離」セクションに記載されている以下の事項を遵守する必要があります。製品を設置する床の正確な水平度をご確認ください。クラッディングのスチール部分を扱うときは、最初の清掃で除去するのが難しい指紋が残らないように、きれいな綿手袋を使用することをお勧めします。ストーブの組み立ては必ず2人以上で行ってください。ペレットストーブを煙道に正しく接続した後でのみ、電源に接続してください。電気ケーブルのプラグは、ストーブを設置した後もアクセスできる状態にしておく必要があります。ペレットストーブは、適合する木質ペレットのみを使用して操作してください（「燃料」の章を参照）。ペレットストーブを作動させたり、残り火を燃やすために液体燃料を決して使用しないでください。動作中は設置環境に十分な換気を行ってください。動作中に異常が発生した場合、燃料供給が中断されます。障害の原因を取り除いた後のみ、アプライアンスを再起動してください。製品に故障や不具合が生じた場合には、使用を中止してください。ペレットホッパーにある保護グリッドは取り外さないでください。繰り返し点火に失敗した後にバーナー内に未燃ペレットが蓄積した場合は、点火前に除去する必要があります。ペレットストーブを作動させると、表面、ハンドル、煙道、ガラスが強く加熱されることがあります。動作中にこれらの部品に触れる場合は、必ず適切な保護服または保護具を着用してください。ガラスは熱を発生するため、ストーブの操作に慣れていない人が設置場所に立ち入らないようにしてください。製品を操作する際の注意事項と考えられる危険について子供たちに知らせてください。万一、取扱説明書の内容が間違っていたり、故障した場合には、販売店にご相談ください。ストーブの上や所定の最小安全半径内に非耐熱性の物体を置くことは禁止されています。使用中にドアを開けたり、ガラスが割れた状態でコンロを使用したりすることは禁止されています。条件、制限、除外事項については、製品に付属の保証書を参照してください。製品の継続的な開発と更新の方針を追求するために、メーカーは予告なく変更を行う場合があります。

1 設置	5
1.1 一般的な注意事項.....	5
1.2 排煙システム.....	5
1.3 煙道.....	6
1.4 煙突または煙道.....	6
1.5 外部煙道ダクトの使用.....	8
1.6 煙突キャップ.....	8
1.7 サウナ室の換気.....	10
1.8 設置室の確認.....	10
1.9 最小安全距離.....	12
1.10 床の保護.....	13
1.11 可燃性材料の壁の貫通.....	14
2 特徴と技術データ	14
2.1 特徴.....	14
2.2 技術データ.....	14
2.3 製品識別データ.....	14
2.4 電気回路図.....	15
3 燃料	16
3.1 一般的な注意事項.....	16
4 組み立て	16
4.1 一般的な注意事項.....	17
4.2 開梱.....	17
4.3 組み立て.....	17
4.4 電気接続.....	18
4.5 サウナ温度センサーの位置.....	20
4.6 排ガス温度センサーの位置.....	20
5 使用	21
5.1 ラジコンの説明.....	22
5.2 最初の点火.....	23
5.3 スイッチオンと通常操作.....	22
6 メニュー	26
6.2 メニュー02「時計設定」.....	26
6.3 メニュー03「クロノセット」.....	26
6.4 メニュー04「言語の選択」.....	30
6.5 メニュー06「スタンバイモード」.....	30
6.6 メニュー07「ブザーモード」.....	30
6.7 メニュー08「イニシャルロード」.....	30
6.8 メニュー09「ストーブステータス」.....	31
6.9 メニュー 10「技術者用パラメータ設定」.....	31
6.10 メニュー 11「ペレットの種類」.....	31
6.11 メニュー 12「煙突タイプ」.....	31
7 安全装置と警報器	33
7.1 安全性.....	34
7.2 アラーム.....	34
8 警告とメンテナンス	36
8.1 ドアを開けるとき.....	36
8.2 灰受けの掃除.....	36
8.3 燃焼ポットの掃除.....	36
8.4 燃焼炉の掃除.....	36
8.5 ストーブ内煙道の掃除.....	37
8.6 排気システムの掃除.....	37
8.7 金属部品およびセラミックの洗浄.....	37
8.8 ガラスの掃除.....	37
8.9 ガラスの破損.....	37
8.10 ファンの掃除.....	37
8.11 ストーブを長期間使わないとき.....	38
8.12 日常および臨時メンテナンス.....	38

1 設 置

1.1 一般的な注意事項

暖房システムまたは暖房器具は、建物や他のシステムに損傷を与えないように設置する必要があります。設置者は、UNI 10683:2022 規格「木材またはその他の固体バイオ燃料を動力源とする熱発生器 - 検証、設置、制御およびメンテナンス」の規定およびその他すべての関連する現地の規制に厳密に準拠する必要があります。

1.2 排煙システム

各機器は、UNI EN 13384-1 に準拠したサイズの燃焼生成物排出システムに接続し、燃焼生成物を大気中へ適切に分散させるのに適したシステムに接続する必要があります。

排煙システムは次の要件を満たしている必要があります。

- 燃焼生成物の排出は常に屋根上で行わなければなりません。たとえ屋外であっても、壁やシャフト内、または密閉された空間への直接放出は禁止されています。
- すべてのコンポーネントは、UNI EN 13501-1 に準拠した火災反応クラス A1 の材料で作られている必要があり、そこに含まれる材料との干渉を評価する必要があります。
- 伸縮可能なフレキシブル金属チューブの使用は許可されません。
- 操作性と安全性の両方の観点から、ダクトが完全に水密であり、正しく設置されていることを確認する必要があります。
- パイプは常に、高温（250°C）での抵抗と弾性の特性を維持するシリコン（非セメンチング）でシールし、 $\text{\O}3.9\text{mm}$ のタッピンねじで固定する必要があります。
- 排気ダクトの建設は、次のマニュアルに記載されているように、専門の担当者または専門業者が行う必要があります。排気システムは常に、部品を分解せずに定期的な洗浄が保証されるような方法で構築してください。
- 排気ガスの通過を妨げるようなダンパーやバルブの取り付けは禁止されています。
- 他の機器（ボイラー、フードなど）からの煙や蒸気が排出される煙突内への設置は禁止されています。
- 集合煙道は許可されておらず、いかなる種類の他の暖炉、ストーブ、ボイラー、または換気フードを接続することもできません（図 1）。

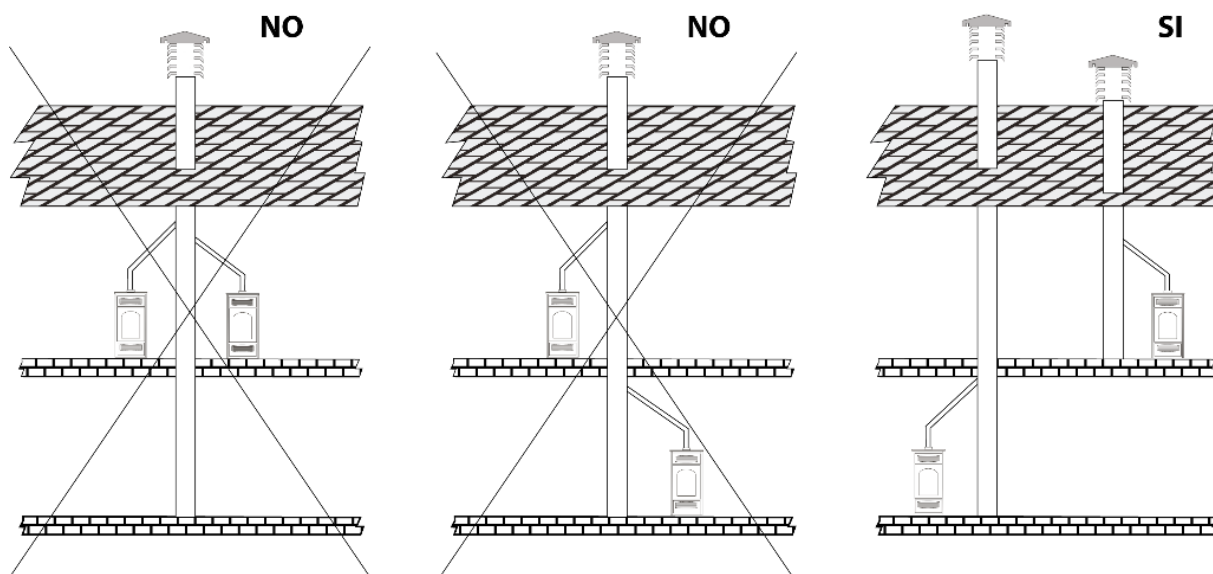


図 1

1.3 煙道

煙管はストーブを煙道に接続する排気管です

排気管は、次の一般要件に従って設置する必要があります。

- 温度の低い室内または屋外を通過する場合は、熱抵抗 R が $0.12 \text{ m}^2\text{K/W}$ 以上になるように常に断熱する必要があります。
- 別の燃焼器具の設置が禁止されている部屋を横切らないこと。
- 特定の火災の危険がある部屋や検査できない部屋を通過してはなりません。
- 通常の熱膨張を許容するような方法で取り付ける必要があります。
- 全長にわたって、器具の排気ダクト接続部の直径以上の直径（径80mm）を持たなければなりません。
- 煤の回収が可能であり、検査可能でなければなりません。
- UNI 10389-2 に準拠したサンプリング穴付きのエLEMENTが装備されている必要があります。
- 器具を煙突に接続するためにフレキシブル金属パイプを使用することは許可されていません。

1.4 煙突または煙道

各アプライアンスには、次の特性を持つ独自の煙道が必要です。

- ストーブの排気管の直径以上の断面と、宣言された高さ以上の高さがなければなりません（表 1 を参照）。
- 負圧下で動作する必要がある
- 内部断面は均一でなければならず、できれば円形でなければなりません。正方形または長方形の断面は半径 20mm 以上の丸い角を持っていなければなりません。辺間の最大比は 1.5。壁はできるだけ滑らかで収縮がありません。曲線は規則的で不連続性がなく、軸からの偏差は 45° を超えません（図2）。
- 垂直方向から 45° 以下の傾斜で方向を 2 回以上変更してはなりません。
- 燃焼生成物の排出のみに使用する必要があります。
- 主に垂直方向の傾向があり、全長に沿ってボトルネックがないこと。
- 製品の技術データシートの指示に準拠したドラフトが必要です。
- エアギャップまたは適切な断熱材を使用して、可燃性または引火性の物質から適切に距離を置く必要があります。
- 使用目的以外の器具を接続するために煙道に固定または可動式の開口部を設けることは禁止されています。
- たとえ大きすぎる場合でも、他の空気供給路やプラント工学目的のパイプを煙道内に通すことは禁止されています。
- 煙道には、気密ドアを使用して簡単に開けて検査できるように、煙道の口の下に固形物質とあらゆる凝縮物を収集するための収集チャンバーを装備することをお勧めします。
- 横引きの煙道を使用する場合は、その長さに対して縦引煙道を高くすることをお勧めします。（図6）

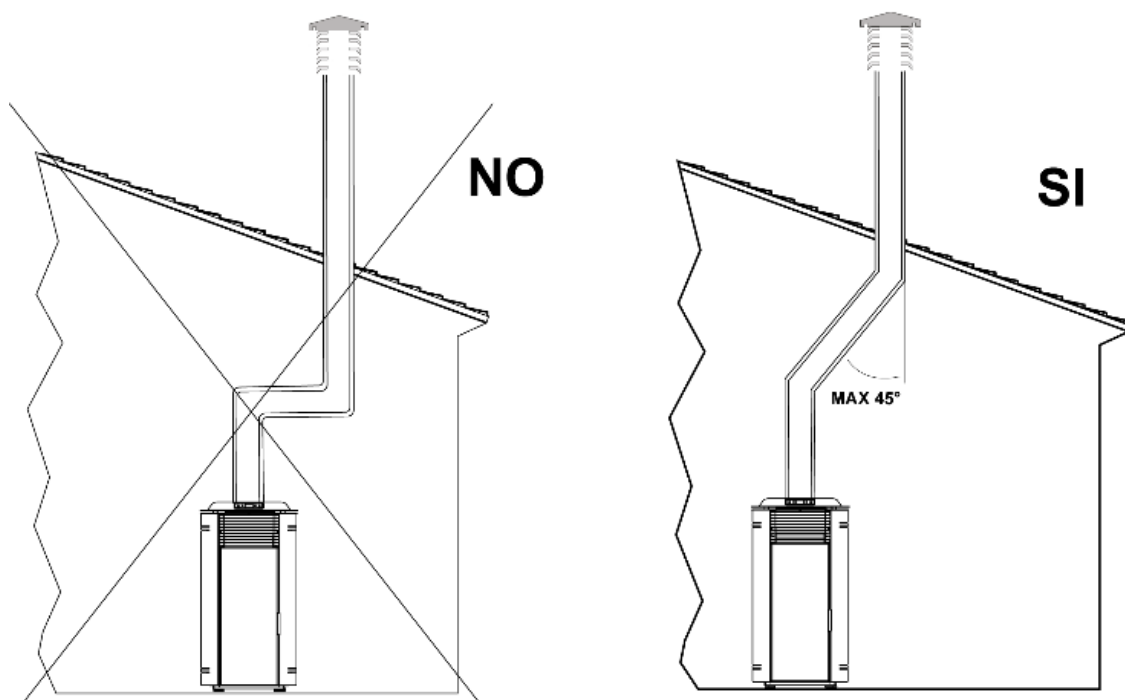


図 2

1.4.1 使用可能な最大長

内径 80 mm のシングル管または断熱二重管を使用できます。オスとメスの接続部分カラーは最小 50 mm の長さが必要です。パイプの直径はシステムのタイプによって異なります。このストーブは Ø80 mm のパイプに対応するように設計されています。

システムのタイプ	Ø80 mm
最小長さ	1.5 m
最大長さ (3 箇所 90° 排気管屈曲時)	4.5 m
海拔 1200 m 以上の設置の場合	-
最大カーブ数	3 つ
横引きの最大長さ (最小勾配 5%)	2m

表 1

注: 90° 曲げの圧力降下は、1 メートルのパイプの圧力降下と同等です。灰検査可能な T 管接続は 90° の曲がりと見なされます。

1.4.2 既存の煙道を使用する

既存の煙道を使用したい場合は、専門の煙突掃除人に点検してもらい、完全に気密であることを確認することをお勧めします。これは、煙がわずかな圧力下にあるため、煙突の亀裂に侵入し、居住環境に侵入する可能性があるためです。検査の結果、煙道が完全に無傷ではないことが判明した場合は、新しい材料で煙道を配管することをお勧めします。既存の煙道が大きい場合は、最大直径 150 mm のパイプを挿入することをお勧めします。排煙ダクトも断熱することをお勧めします。イチジクで。図 3 と 4 は、既存の煙道を使用する場合に採用される解決策を示しています。

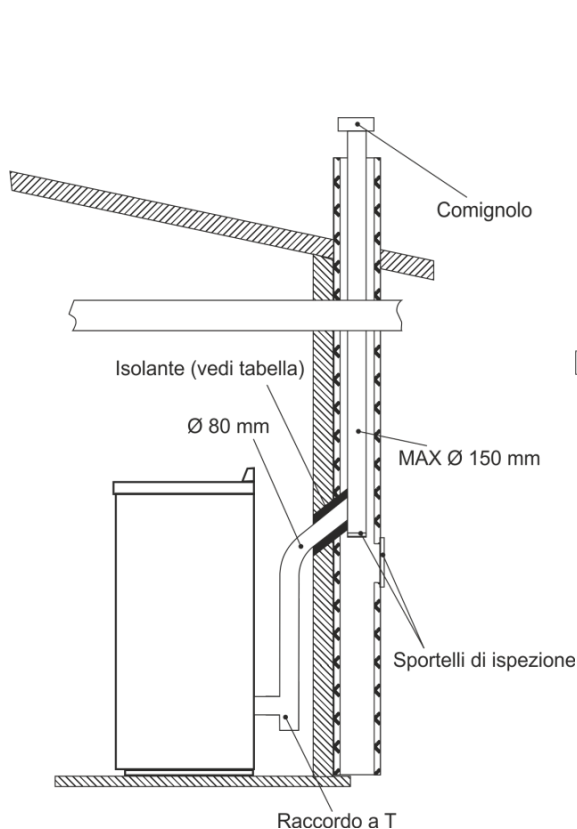


図 3

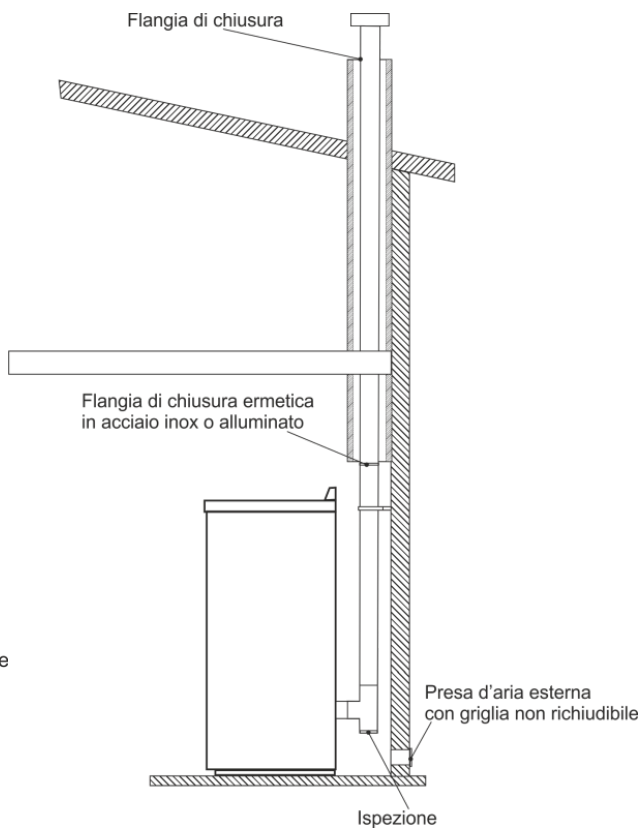


図 4

1.5 外部排ガスダクトの使用

外部煙道ダクトは、次の要件を満たす場合にのみ使用できます。

- ダクトには、建物に固定された断熱（二重壁）ステンレス鋼管のみを使用してください（図 5）。
- 定期的な点検とメンテナンスを行うために、ダクトの根元の検査が必要です。
- ダクトには防風煙突キャップを取り付け、額面で報告されている建物の最上部からの距離「d」を尊重する必要があります。

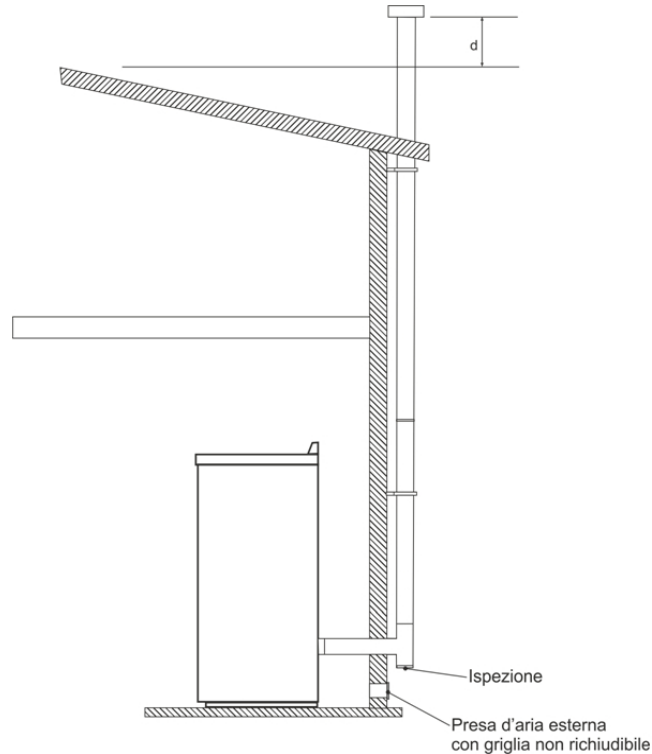


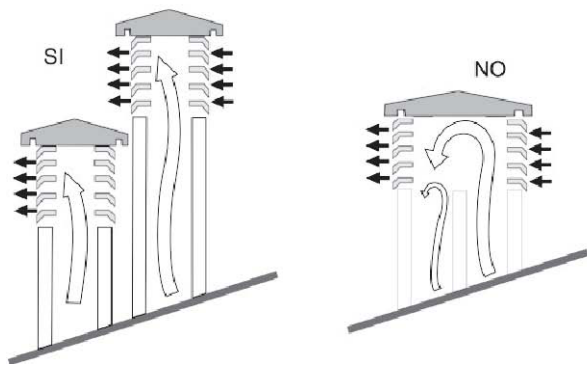
図 5

1.6 煙突キャップ

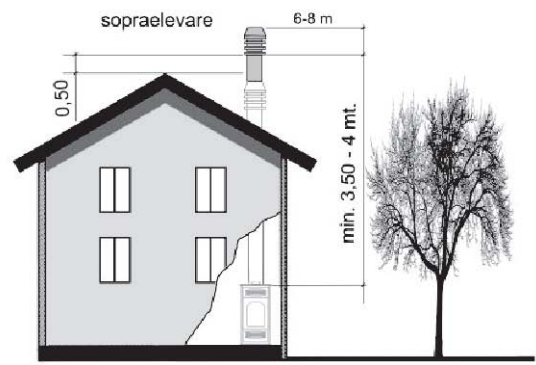
煙道の上部には、燃焼生成物の大気中への拡散を促進するように設計された煙突キャップと呼ばれる装置を取り付ける必要があります。

煙突キャップは次の要件を満たしている必要があります。

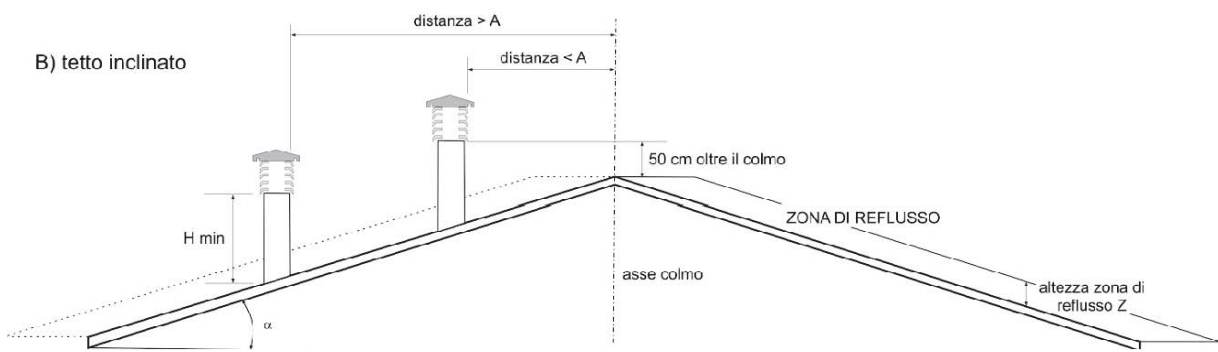
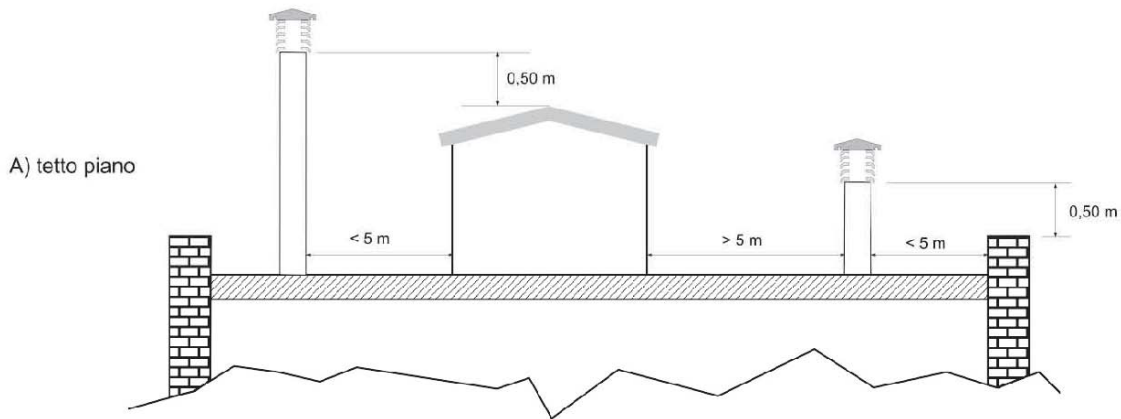
- 煙道と同等の断面および内部形状を有します。
- 有効な出口セクションが煙道の 2 倍以上であること。
- 煙突ポットが屋根から突き出ている場合、または外部と接触したままの場合（たとえば、開いた屋根裏部屋の場合）、レンガ要素で覆い、いずれの場合も十分に断熱し、煙突が発生しないように構築する必要があります。雨、雪、異物が煙道に侵入するのを防ぎ、あらゆる方向と傾斜の風が吹いた場合でも燃焼生成物の排出が確保されます（防風煙突キャップ）。
- 燃焼生成物の適切な分散と希釈を保証するような方法で、いかなる場合でも還流領域の外側に配置する必要があります。この部分は屋根の傾斜角度により寸法や形状が異なるため、図 7、図 8 に示す最低高さを採用する必要があります。
- 煙突キャップは防風タイプで、棟の高さを超えるものでなければなりません（図 7 および図 8）。
- 煙突キャップの高さを超える建物やその他の障害物を煙突キャップ自体に近づけないでください（図 7）。



☒ 6



☒ 7



☒ 8

1.7 サウナ室の換気

サウナ室は、ストーブが設置されている壁近くに、最小寸法 150x150 mm の換気入口作る必要があります。

ほぼ同じ面積の換気排気口を、天井から 300 mm 低く、最も近い端から少なくとも 1000 mm の反対側の壁に配置する必要があります。

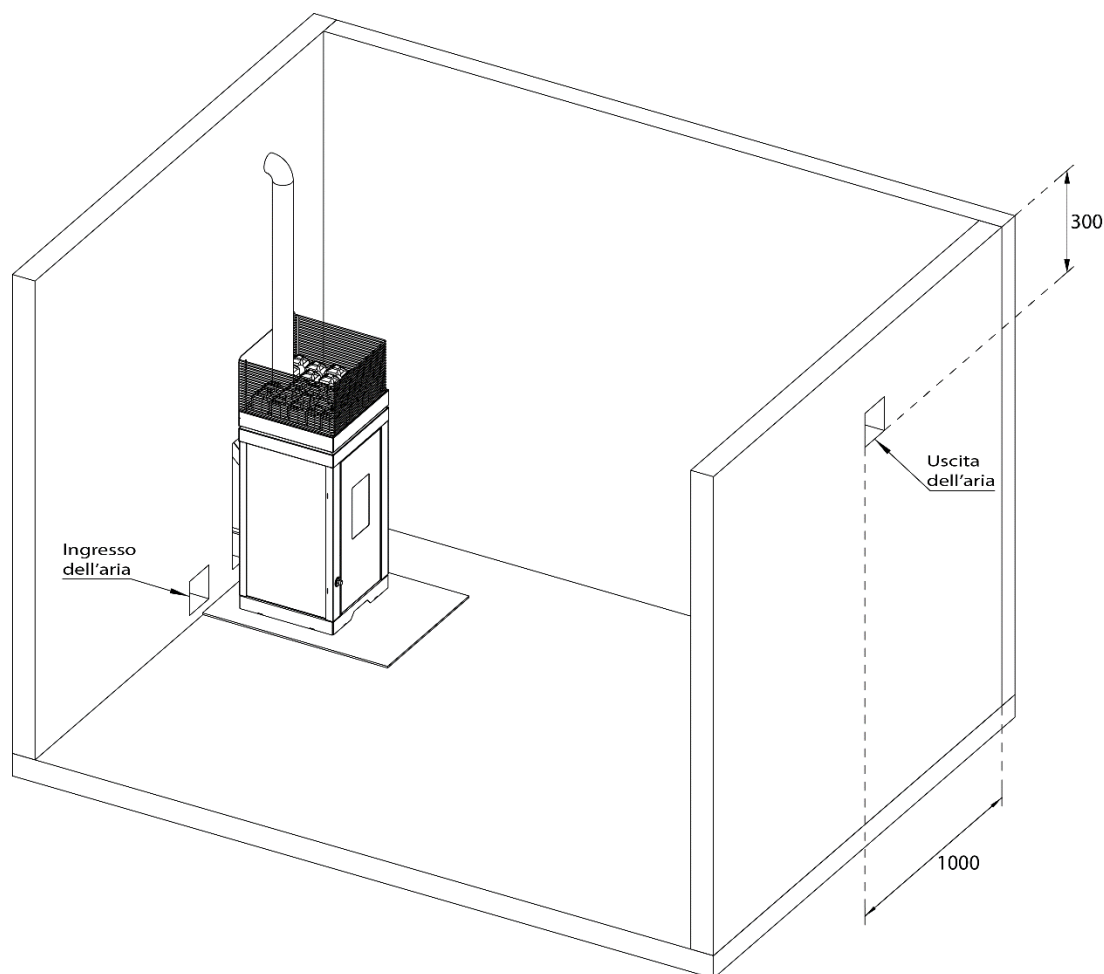


図9

1.8 設置室の確認

- 火災の危険のある室内への設置は禁止です。
- 屋外、大気中の物質にさらされる場所、または湿気の多い場所への設置は禁止されています。
- バスルーム、寝室、ワンルームアパートメントでは、外部から燃焼用空気をダクトで取り込む密閉型設備または密閉炉設備のみが許可されます。
- ストーブは、安全かつ簡単に使用でき、メンテナンスが簡単な場所に設置する必要があります。この場所には、現在の規制に従って、接地を備えた電気システムも装備する必要があります。

1.8.1 防火要件

- 設置室は火災の特別な危険にさらされてはならず、また可燃物の倉庫として使用されてはなりません。器具が設置されている部屋に固形燃料を保管することは禁止されています。
- 煙突接続パイプは可燃性の表面を決して通過しないでください。

- ・ 梁、木製家具、カーテン、可燃性液体などの可燃性または引火性材料のすべての要素を炉床の放射領域の外側に置き、いかなる場合でも炉床から少なくとも 1 m の距離に置くことをお勧めします。加熱ブロック。
- ・ 周囲の空間に可燃性または熱に弱い材料で作られたカバーがある場合は、絶縁性かつ不燃性の材料で作られた保護ダイアフラムを配置する必要があります。床が可燃性の材料で作られている場合は、囲炉裏の口に横に 15cm、正面から 30cm 突き出た不燃性の材料で作られた保護を作成する必要があります。
- ・ サウナ室の高さが 2 メートル未満の場合、部屋の天井を断熱する必要があります (1.9 項を参照)。
- ・ **注意:** 煙道から部屋の壁への熱の伝達を避けるため、金属ブラケットを使って煙道を煙道の内壁に固定することは禁止されています。

詳細については、現地で施行されている規制を参照してください。

注意: ヒューム排気管が壁または天井を通過する場合は、特定の設置方法 (保護、断熱、熱に弱い物質からの距離など) を適用する必要があります。

注意: 同じ部屋、または隣接して連絡している部屋に設置されている機器は、防火の目的で、個々の電力の合計に等しい囲炉裏の熱出力を持つ単一システムの一部として考慮する必要があります。(家電製品。)

1.8.2 他のデバイスとの共存

次の表は、同じ部屋または通信中の部屋に複数のデバイスを設置する場合に考えられる構成を示しています。

	普通のバイオマス機器	高気密住宅用バイオマス機器	ガソリン/灯油タイプA	ガソリン/灯油タイプB	ガソリン/灯油タイプC	ガス調理器具
普通のバイオマス機器	UNI 10683 の規定に従って認められる	認可	禁止	禁止	認可	認可
高気密住宅用バイオマス機器	認可	認可	認可	認可	認可	認可

表 2

* 防水設置は、外部環境からすべての空気を取り込むことによって環境中の酸素を消費せず (適切にダクトが設置されている場合)、製品を「パッシブハウス」や「パッシブハウス」などの高度な断熱が必要なすべての住宅の内部に設置することができます。「高いエネルギー効率」。この技術のおかげで、環境内での煙の排出のリスクがなく、設置環境内で自由に空気を取り入れられるため、それぞれの換気グリルは必要ありません。

1.8.3 設置室の最小容積

設置室の最小容積を計算するには、次の式を使用する必要があります。

$$V \text{ (部屋の容積)} = 10 \times P \text{ (ストーブ最小能力)}$$

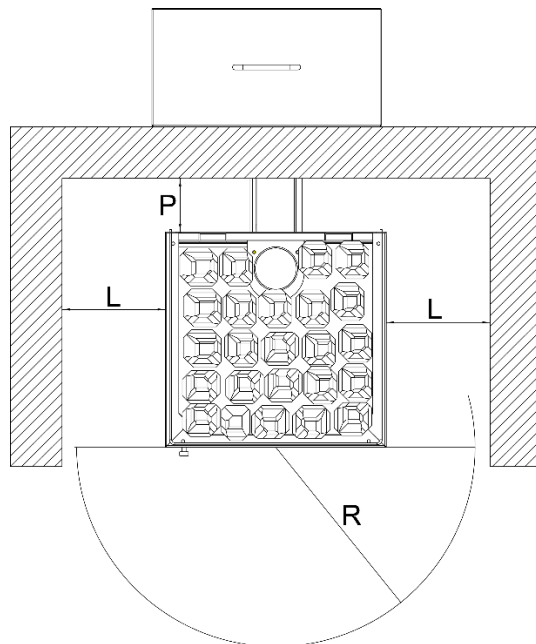
ここで: V (部屋の容積) は m³ で表され、P (ストーブ最小能力) は kW で表され、ストーブの最小出力に等しい。

1.8.4 設置室の床の容量

支持面および/または支持点は、機器、付属品、およびカバーの総重量を支えるのに適した容量を備えていなければなりません。

1.9 最小安全距離

次の図は、必要な最小安全離隔寸法を示しています。



可燃物からの安全距離:

可燃性後壁からの空気中の最小距離 P= 50 mm

可燃性側壁からの空気中の最小距離 L= 200 mm

可燃物からの前面距離 R = 1000 mm

可燃性天井からの距離 (mm)

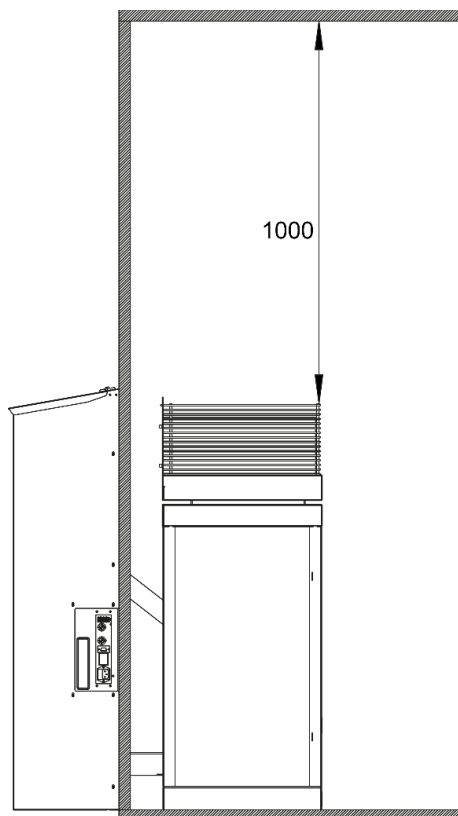


図11

図 11 に示されている測定値は、サウナの壁を断熱材で覆うことによって減らすことができます。

図12に示さすように、天井からの最小距離は800mm以上である必要があります。また、断熱材は鉱物由来（ロックウール、セラミック繊維）であり、その公称密度は80kg/m³を超えてはいけません。

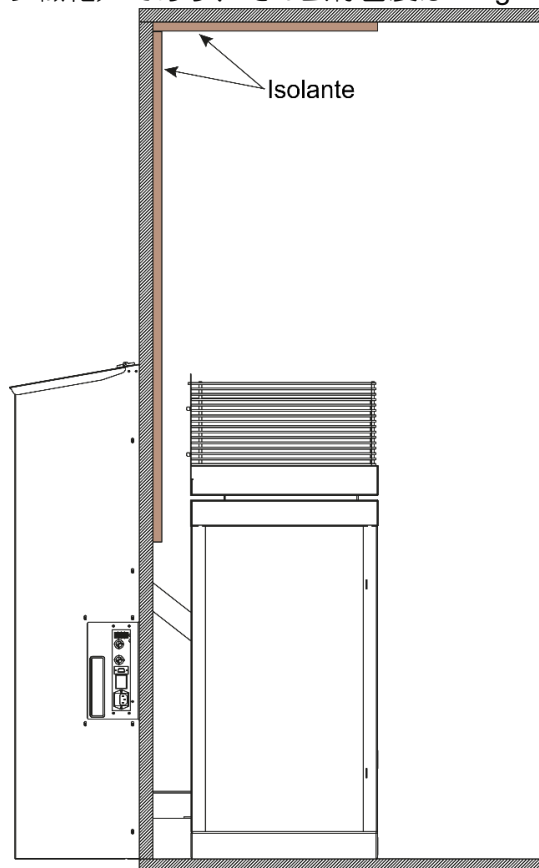


図12

1.10 床の保護材

熱、湿気、可燃性に弱い高品質の床材の場合は、床保護材（鋼板、大理石、タイルなど）を使用する必要があります。どのタイプの保護具を選択する場合でも、保護具はストーブの前面から少なくとも 300 mm、側面部分から少なくとも 100 mm 突き出し、ストーブの重量に耐え、少なくとも 2 mm の厚さがなければなりません (図 13、図 14)。

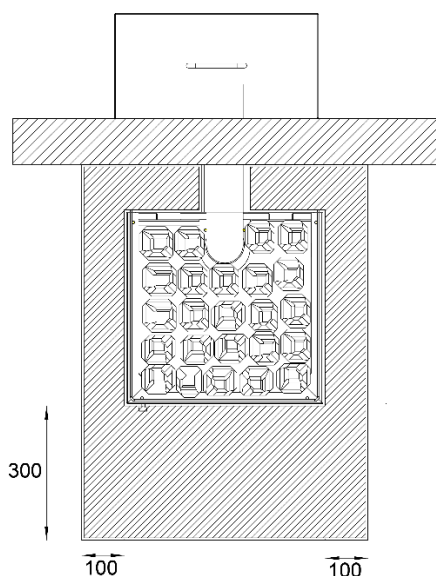


図 13

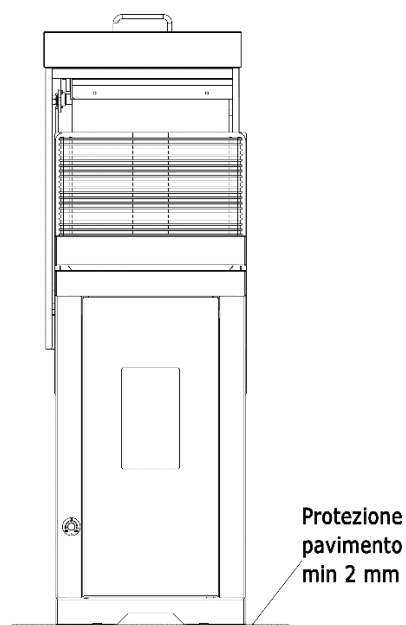


図 14

1.11 可燃性材料の壁の貫通

ストーブの置き位置が決まったら、排煙管を通すための穴を開ける必要があります。これは、設置のタイプ（つまり排気管の直径）および通過する壁または屋根のタイプによって異なります（表 3）。断熱材は鉱物由来（ロックウール、セラミック繊維）で、公称密度が 80 kg/m³ を超えるものでなければなりません。

	断熱材の厚さ[mm]	煙道管の直径[mm]	
		Ø80	
		開ける穴の直径[mm]	
木製の壁または屋根、またはいずれの場合も可燃性のもの、または可燃性の部品を含むもの	100	280	
コンクリートの壁または屋根	50	180	
レンガの壁または屋根	30	140	

表 3

2 特徴と技術データ

2.1 特徴

ペレットストーブは、高品質の木質ペレットのみを使用して動作するように作られたバイオマス燃焼機器です（第 3 項の燃料を参照）。

2.2 技術データ

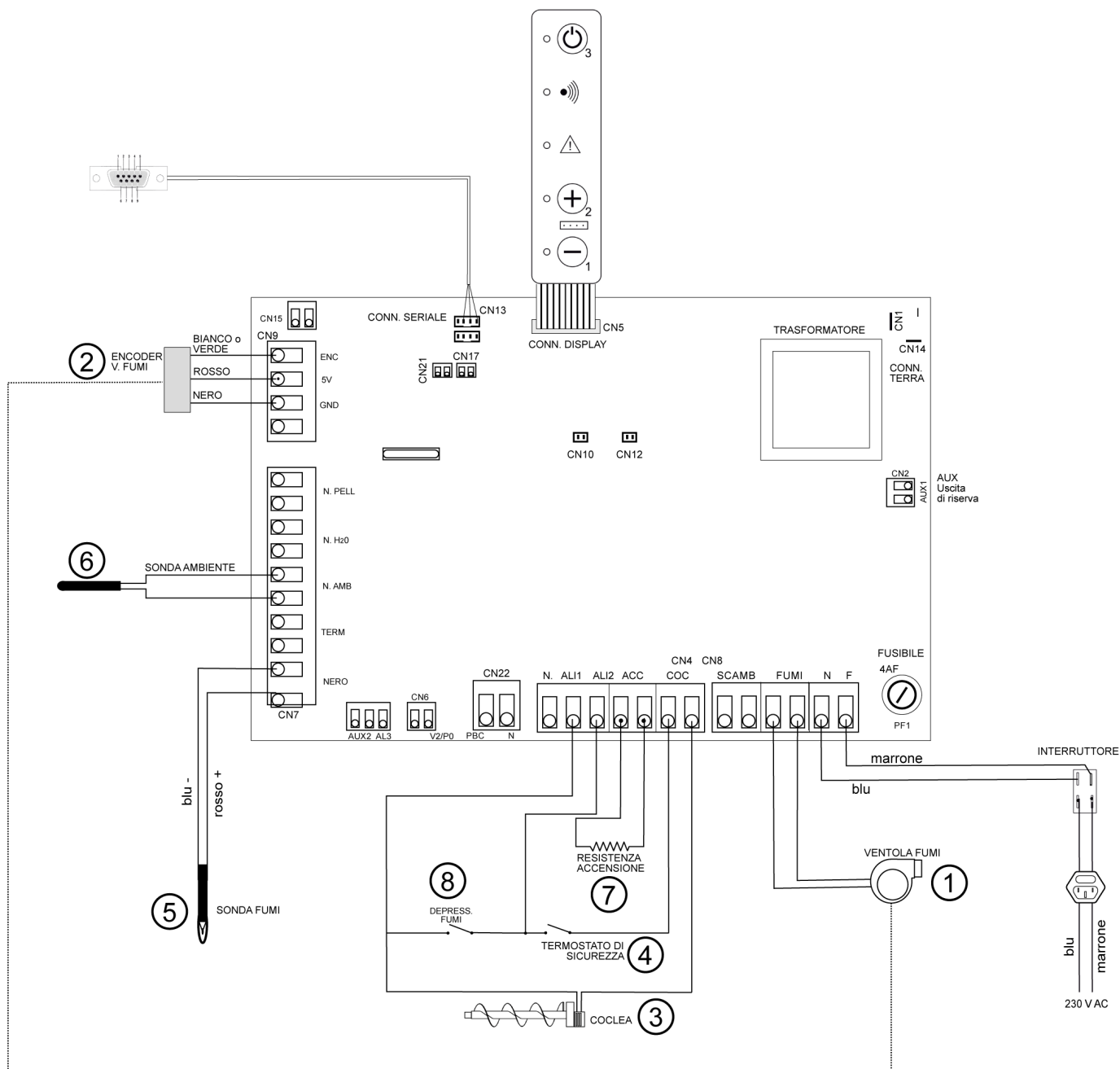
モデル名	Venere 6 Matic	Venere 9 Matic	Venere 11 Matic
最大能力	6,5 kw	9,0 kW	11,0 kW
最大ペレット消費量	1,4 kg/h	2,0 kg/h	2,4 kg/h
おおよその暖房可能容積	6-10 m ³	8-14 m ³	10-18 m ³
ペレットタンク容量	15 kg	15 kg	15 kg
排気管直径	80 mm	80 mm	80 mm
ストーブ重量	110 kg	110 kg	110 kg
サウナ室に入るストーブサイズ (LxPxH)	425x415x1120 mm	425x415x1120 mm	425x415x1120 mm
サウナ室の外に設置されるペレットタンクカバーのサイズ (LxPxH)	514x280x1100	514x280x1100	514x280x1100

個々のモデルの技術データは、Web サイト www.laminnox.com でご覧いただけます。

2.3 製品識別データ

技術ラベルは、ストーブのデータとパフォーマンスを報告します。改ざん、取り外し、技術ラベルの欠如により、製品の識別ができないため、設置やメンテナンス作業が困難になります。データラベルの重要性を考慮し、常に見えるように距離を考慮してストーブを設置することをお勧めします。

2.4 電気回路図



PL023-VENERE
rev.12-2023

3 燃料

3.1 一般的な注意事項

この製品は木質ペレットのみを燃焼するように設計され、認定されています。

木質ペレットは、乾燥した天然木材の加工および変形残渣から得られる木のおがくずを圧縮して得られる燃料であり、木材に含まれる天然物質であるリグニンによって長期にわたる製品の緻密性が保証されます。小さな円柱の典型的な形状は絞り加工によって得られます。さまざまな種類のペレットが市場で入手可能であり、加工方法や使用する木材エッセンスの種類によって品質や特性が異なります。

注意: 必ず認定された高品質の木質ホワイトペレットを使用してください。 灰の多い全木ペレットやバークペレットなど 低品質のペレットを使用した場合、このストーブの正常な機能を保証しません。

このストーブは、特定の特性を持つペレットで優れた性能と完璧な動作品質を保証するようにテストおよびプログラムされています。

材質:	木質ホワイトペレット
長さ:	30 mm 以下
直径:	6~6.5mm
最低発熱量:	4.8kWh/kg
湿度率:	8%以下
灰残留物:	0.5%以下

高品質のペレットは滑らかで光沢があり、ほこりが少なく、長さが一定です。

低品質のペレットにはさまざまな長さがあり、縦方向と横方向に亀裂が入っていてほこりが多いです。ペレットの特性と品質はストーブの自律性、性能、正確な機能に大きく影響するため、次のことをお勧めします。メーカーが記載した寸法と異なるペレットの使用は避けてください。

低品質のペレット、または分散したおがくず、樹脂や化学薬品、添加剤や接着剤を含むペレットの使用は避けてください。湿ったペレットの使用は避けてください。

不適切なペレットを選択すると、次のような問題が発生します。

- 燃焼ポットや排煙ダクトの詰まり。
- 燃料消費量の増加。
- パフォーマンスの低下。
- ストーブの異常運転。
- ガラスの汚れ。
- ペレットの完全燃焼や大量の残留灰。

ペレット内に湿気が存在すると、カプセルの体積が増加し、カプセルが崩れて、次のような問題が発生します。

- ペレット投入システムの故障
- 燃焼不良。

ペレットは乾燥した保護された場所に保管する必要があり、袋の取り扱いには特に注意して、袋が潰れておがくずが形成されるのを避ける必要があります。

高品質のペレットであっても、寸法や発熱特性が示されているものと異なるものを使用するには、ストーブの動作パラメータを変更する必要がある場合があります。必要に応じて、認定サポートセンターにお問い合わせください。

品質の悪いペレットの使用、製造元の情報に準拠していないペレットの使用によりストーブを損傷し、その性能を損なうと、上記のような問題が発生する可能性があります。

その場合は保証およびメーカーの責任は無効になります。

4 組み立て

4.1 一般的な注意事項

事故や製品の損傷を避けるために、次のような推奨事項をいくつか示します。

開梱および設置作業は 2 人以上で行ってください。

すべての取り扱い作業は、適切な手段を使用し、現在の安全規制に完全に準拠して実行する必要があります。

梱包された製品の向きは、梱包上の絵文字や表記に従ってください。

ロープ、ストラップ、チェーンなどを使用する場合。降ろす重量に適しており、良好な状態であることを確認してください。

梱包を移動するときは、ロープやチェーンなどが切れないように、ゆっくりと連続的に移動してください。

転倒を防ぐため、パッケージを過度に傾けないでください。

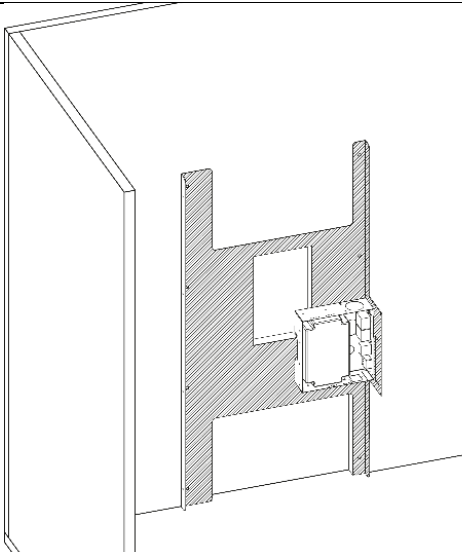
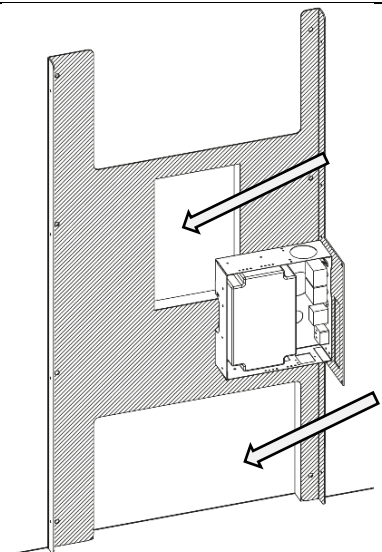
荷役車両（フォークリフト、クレーン等）の動作範囲内には絶対に立たないでください。

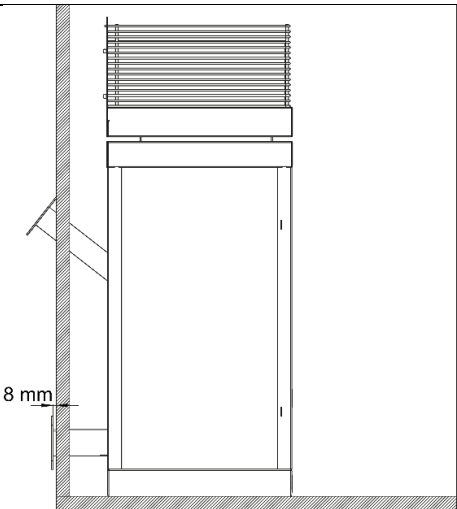
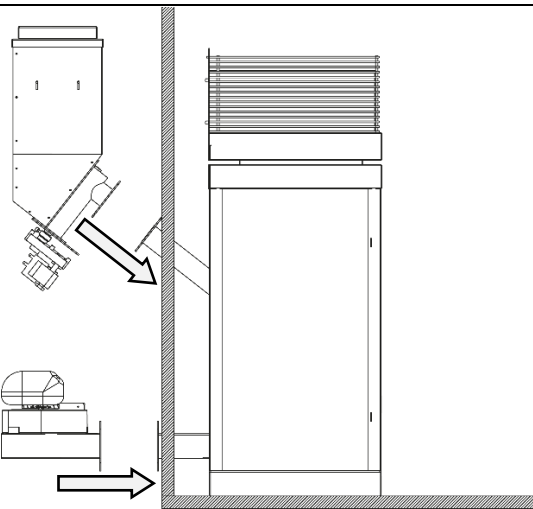
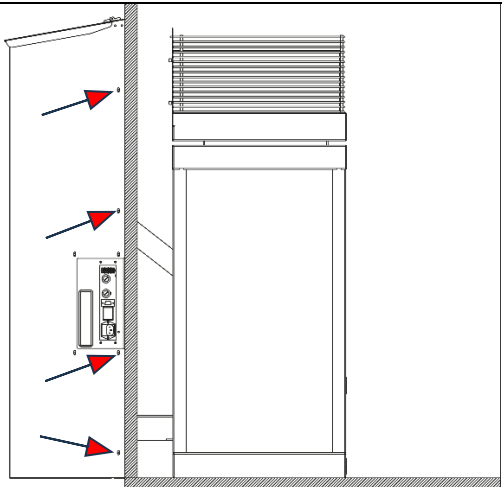
4.2 開梱

損傷や傷を付けないように注意して製品を開梱し、付属品のパッケージと、ストーブ炉床から取り外し可能な部品などをブロックするために使用されているポリスチレンまたはボール紙を取り外します。説明書と保証書が入った封筒は、通常、防火区画またはペレットタンクのいずれかに置かれていますので、取り出してください。

また、潜在的な危険源となる可能性のある包装の一部（ビニール袋、ポリスチレンなど）を子供の手の届くところに残さないようにし、現行法に従って処分してください。

4.3 組み立て

 <p>図15</p>	 <p>図16</p>
<p>カードホルダープレートをサウナ室内に置き、ストーブを設置する場所の地面に置き、壁をカットするための手段として使用します</p>	<p>ストーブの外部本体との接続に必要な穴を壁に 2 つ開けます。</p>

 <p>8 mm</p> <p>図17</p>	 <p>図18</p>
<p>ストーブの内部本体を壁の 2 つの穴に合わせて配置し、壁の外側部分と煙箱のフランジの間に約 8 mm の距離を残します。</p>	<p>ペレットタンクと排気ファンを内部のストーブに接続し固定する。</p>
<p>すべての電気接続を行います (パラメーター 4.4 を参照)。</p>	 <p>図 19</p> <p>外側カバーを配置し、側面のネジを使用して固定します。</p>

4.4 電気部品接続

機械的な組み立てが完了すると、ケーブルに貼られたラベルの指示に従って電気接続を行うことができます。次の部品を接続する必要があります。

- 排気ファン
- エンコーダー
- ペレット供給ギアモーター
- 耐熱素材
- 点火ヒーター
- 室温温度センサー (4.5 項を参照)
- 排気ガス温度センサー (4.6 項を参照)

日本国内で使用する場合は 100V から 230V への 500W アップトランス変圧器をご利用ください。

ストーブ後部のソケットの接続を図 15 に示します。 電力消費量については、Web サイト www.laminnox.com からダウンロードできる製品技術データシートに示されています。 法律により、システムにはアース接続とブレーカースイッチを装備する必要があります。

電源ケーブルが排気ファンなど高温になる部品に接触しないように注意してください。

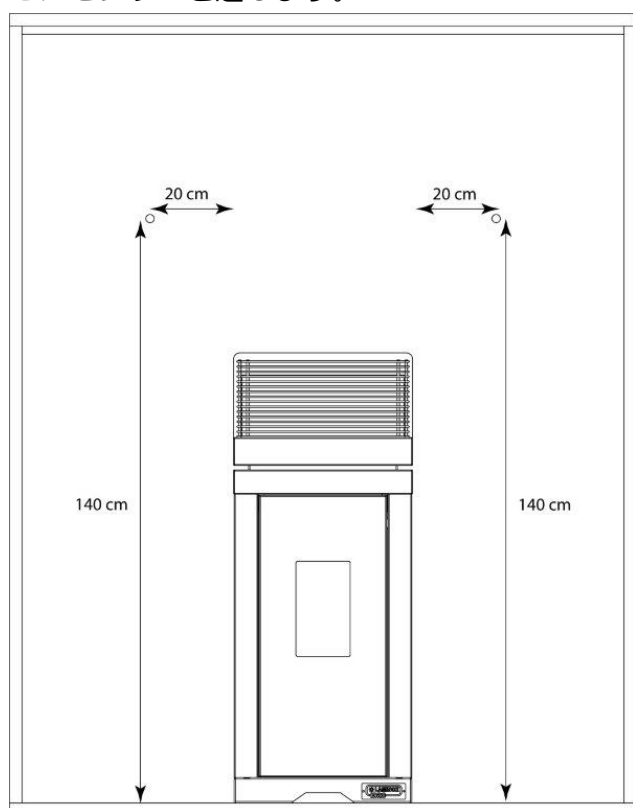
注意: ストーブを設置後も、電気接続用のプラグに簡単にアクセスできることを確認してください。

4.5 サウナ温度センサーの位置

ストーブの出力はサウナ室の温度に基づいて自動調整されます。

温度はストーブが設置されている壁に設置する室温センサーによって検出されます。

室温センサーを設置するには、床高さ約 140 cm、ストーブ端から20cm の位置の壁に穴を開けそこにセンサーを通します。



▲ 警告: サウナ温度センサーをストーブや熱い石に接触させないでください。

4.6 排ガス温度センサーの位置

排気ガス温度センサー (図 20) は、排気ファン (図 21) の以下の写真で示す赤いシリコンガasketの穴に挿入します。挿入時にあまり深く入れすぎないようにしてください。(センサーの先の金属部分の半分の長さだけを挿入します。)



図 20

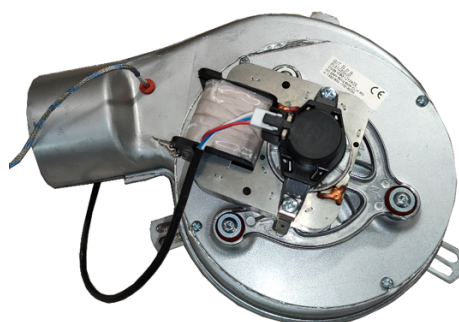


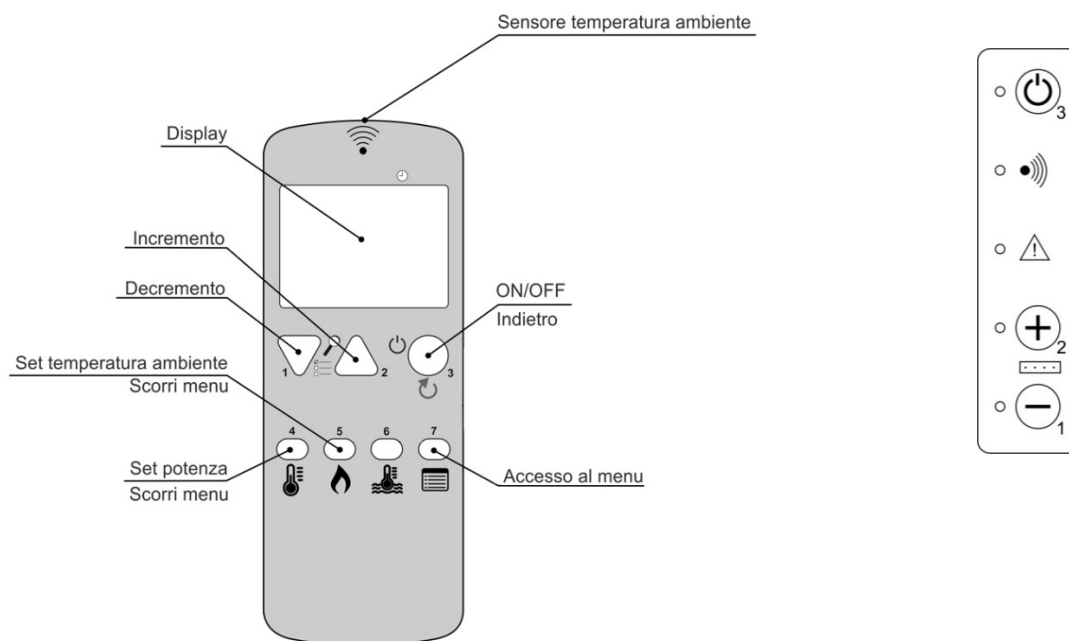
図 21

5 使用



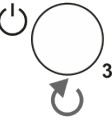



- アプライアンスを設置するときは、国内および欧州の規格に関連する規制を含むすべての現地規制を遵守する必要があります。 準拠していない設置またはアプライアンスの不適切な使用により、保証が無効になる場合があります。
- アプライアンスを焼却炉として、または設計目的以外の方法で使用しないでください。
- 木質ペレット以外の燃料は使用しないでください。 液体燃料は使用しないでください。
- アプライアンス、特に外面は、動作中に触れると高温になります。 火傷を避けるために慎重に操作してください。
- アプライアンスに不正な変更を加えないでください。 メーカーが推奨する純正のスペアパーツのみを使用してください。
- ストーブが設置されている部屋に十分な換気があることを確認してください (セクション 1.6 「換気」を参照)。
- 排気管システムのすべての接合部が耐熱性 (250°C) で劣化していないシリコン (接着剤不使用) で密封されていることを確認してください。
- 排ガスシステムの清浄度を定期的にチェックしてください (またはチェック済みです)。
- 注意: 可燃性物質は、動作中はストーブから十分離してください (最低: 正面壁から 100 cm)。
- 注意: 煙が漏れるのを防ぐため、ストーブをオフにして行う清掃作業中以外は、燃烧室を閉じたままにしておく必要があります。
- 注意: タンク内の保護グリルを取り外すことは固く禁じられています。
- 注意: ストーブの点火中にペレットを燃料タンクに補給する場合は、ペレットが使い終わっていないこと、燃烧ポットに炎が常に存在していることを確認してください。 炎が消えると濃い白煙が発生し、燃烧室内で爆発を引き起こす可能性があります。 爆発は防火扉のガラスを粉砕するほどの強さになる可能性があります。 したがって、燃料から濃い白い煙が出る場合、点火段階ではストーブの前には決して立たないように注意してください。 しかしストーブにはガラス破損のリスクを最小限に抑えるために必要な安全システムがすべて装備されています。
- 警告: 燃料バッグが高温の表面に接触しないようにしてください。
- 注意: ストーブを再度始動する前に、点火の失敗によって生じた未燃のペレットの堆積物を取り除いてください。
- 注意: 点火段階でこれが起こらず、燃烧室内に多量の煙があることに気づいた場合は、すぐにストーブの電源を切り、ペレットは湿度が高すぎる可能性があるため交換してください。 点火にこだわるとストーブが危険になる可能性があります。
- 注意: 掃除中に海綿状で硬いペレットの残留物 (クリンカー) に気づいた場合は、使用したペレットを交換してください。 これは、このタイプのストーブでは使用できない低品質のおがくずの廃棄物である可能性があります。 無理に使用すると、煙突内で火災や強い煙が発生する可能性があります。
- 注意: 燃烧ポット内のペレットの燃烧が良好であることを確認してください。 燃えないペレットの蓄積に気づいた場合は、すぐにストーブの電源を切り、販売店に連絡してください。
- 警告: お子様がいる場合は最大限の注意を払い、ストーブの前に立たないようにしてください。

5.1 ラジコンの説明



ストーブの運転状況をラジコンで表示できます。メニューにアクセスすると、さまざまな種類の表示を取得したり、アクセスレベルに応じて利用可能な設定を行うことができます。動作モードに応じて、ビューが異なる場合があります。ラジコンの位置によって意味が異なります。



5.1.1 主な機能

	<p>キー 1 火力削減</p>	<p>機能：</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定電力値または設定中の基準値の減少
	<p>キー 2 パワーの増加</p>	<p>機能：</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定電力値または設定中の基準値の増加
	<p>キー 3 オンオフ</p>	<p>機能：</p> <ul style="list-style-type: none"> 暖炉インサートのオン/オフを手動で切り替えます。 プログラミング状態を終了する メニューを終了する ロックアウトまたはアラーム状態を終了します（およびオフ状態に移行します）。
	<p>キー 4 温度調節</p>	<p>機能：</p> <ul style="list-style-type: none"> サウナの室温設定に切り替える メニューを下にスクロールします 技術パラメータ設定モードでは、サブメニューをスクロールします。
	<p>キー 5 パワー調整</p>	<p>機能：</p> <ul style="list-style-type: none"> 電力設定に切り替える メニューを上スクロールします 技術パラメータ設定モードでは、サブメニューをスクロールします。
	<p>キー 7 設定の選択</p>	<p>機能：</p> <ul style="list-style-type: none"> メニュー機能への移動 クロノサーモスタットと時計のプログラミングへの移行 技術パラメータのプログラミングへの移行

ペレットタンクの表示パネルの LED の意味は次のとおりです。

	LED パワー	信号がオンになる
	アラーム	ストーブのアラーム状況を知らせます
+	パワー調節	ボタンを押すことでパワーが5まで上がります
-	パワー調節	ボタンを押すことでパワーが1まで下がります

5.1.2 ラジコンの電池交換

ラジコンの後部カバーを取り外します

極性を逆にしないように注意して電池を交換してください

電池は単 4(LR03) 1.5V タイプをお使いください。

5.1.3 送信単位の設定

このストーブは100V から230V に変換する変圧器（アップトランス）繋げてを電気接続する必要があります。

- ・ “SELECT UNIT” という文字が表示されるまで、キー 1-2 (上矢印と下矢印) を約 3 ~ 4 秒間同時に押し続けます。
 - ・ 1-2 キー (1-2-3...) で送信単位を選択します。 リモコンは送信単位が 0 (デフォルトの単位) に設定された状態で提供されます。
- ・ ストーブ本体の電源スイッチを切り、再度オンにします。
- ・ 記憶するには、ボタン 3 (オン-オフ) を約 3 秒間押し続けると、記憶と接続が完了したことを示すピープ音が鳴ります。
- ・ リモコンは通常の操作の準備ができています。

5.1.4 バックライトの設定

P1 ~ P7 ボタンを同時に押すと、バックライトの持続時間を選択します。

デフォルトではバックライトはオフになっています。

5.2 最初の着火

ストーブを始動する前に、専門の技術者による初回着火が必要です。

当社は、不適切な取り付け、失敗または不適切な初回起動、不適切な使用に起因する故障に対する一切の責任を負いません。

電気接続が確実に安全な方法で行われていることを確認してください。

ストーブに点火前に、燃焼ポットが燃焼室の後壁に向かって押し戻されているか確認してください。

初回の始動時には、塗料やグリスの蒸発により臭いが発生する場合がありますので、ドアを開けて部屋を換気してください。初めてタンクにペレットを装填するときは、一定時間オーガを充填する必要がありますため、すぐにはペレットは燃焼ポットに落ちてきません。 そのときはコントロール パネルのメニュー 7 にある「初期ロード」コマンドを使用します (詳細は以下を参照)

5.3 スイッチオンと通常の動作

ストーブに点火する前に、次のことを行ってください。

- ・ 燃焼炉ドアが適切に閉まっていることを確認してください。
- ・ ペレットタンクが満杯であるか、十分な量のペレットが入っていることを確認してください。

- 燃焼ポットがきれいでき、灰、燃焼残留物がないことを確認してください。必要に応じて燃焼ポットを取り外し、掃除して元の位置に戻します。
- タイマーを使用してプログラムされたスイッチオンの場合、最後のスイッチオフ後、燃焼ポットがきれいになっているかを確認してください。

ストーブは通電しているが動作モードではない場合、ラジコンに「OFF」という文字が表示されません。

5.3.1 ストーブを始動する

ストーブを始動するには、スタートボタン(3)を約 2 秒間押し続けてください。

最終掃除段階でストーブを始動すると、「WAIT COOLING」という文字が表示されることがあります。この場合は、数分待ってから再度電源を入れてみてください。

第 1 段階 準備

リモコンに「TURN ON」という文字が表示されます。約 1 分間続くこの段階では、ペレット点火プラグが作動し、燃焼室の強制排気が排気ファンの作動とともに始まります。

第二段階。電源オン

準備段階が終わると、ラジコンに「LOAD PELLET」の文字が表示され、点火段階が始まります。この第 2 段階は、予負荷と実際の点火の 2 つの部分に分かれています。最初に、モデルに応じてさまざまな時間間隔でペレットオーガが作動し (オーガ ON LED が点灯)、ペレットが燃焼ポットに落ち始めます。

この段階の開始時には、燃焼ポットは完全にきれい掃除しておくことに注意してください。

この予圧が完了すると、ペレットスクリュースはモデルに応じてさまざまな時間停止します (2 ~ 3 分間)。この待機段階の後、ペレットオーガが一定の間隔で点灯し始め、その結果、点火プラグと排気ファンの両方が作動したままになりながら、ペレットがストーブの燃焼ポットに再び落ち始めます。

ペレットが点火プラグの穴を覆うとすぐに赤くなり、次に小さな炎が点火します。

このように点火せずにペレットが燃焼ポットを満たし続ける場合は、ストーブが「AT 5 NO IGNITION」のアラームになるのを待たずに、点火プロセスを手動で中断できます。

この第 2 段階は、ストーブが燃焼プロセスの開始を検出したとき、つまり最初の炎が点火されてから約 4 ~ 5 分後に終了します。

一定時間内に燃焼が検知されない場合は、不点火警報 (メッセージ「ON 5 NO IGNITION」) が作動します。

第 3 段階 安定

燃焼の点火が検出されると、第 3 フェーズが開始され、「FIRE PRESENT」という文言がラジコンに表示されます。火炎を安定させ、点火段階で火鉢に蓄積した余分なペレットを廃棄できるようにするために、ペレットの供給量が減り、換気が増加します。このフェーズは約 5 分続きます。安定化フェーズ (「FIRE PRESENT」) が完了すると、ストーブは通常の動作フェーズに移行します。

5.3.2 点火失敗

前述したように、燃焼トリガーが検出されない場合は、点火失敗アラームが発せられ、ラジコンに「AL 5 NO IGNITION」という文字が表示され、一定の間隔で音響信号が発せられます (メニュー 6 のブザー機能がアクティブな場合)。

アラーム状態を解除するには、ON-OFF ボタン (3) を長押し (約 2 秒) します。音響アラームが停止し、コンロは最初に「最終洗浄」状態に戻り、次に「オフ」状態に戻ります。

新しい点火サイクルを開始する前に、特に次のようなアラーム状態を引き起こした原因を確認する必要があります。

ペレットタンクが空になっていないことを確認してください

• 燃焼ポットが正しい位置にあることを確認してください。

再度点火する前に、燃え残ったペレットを燃焼ポットから取り除いてください。

• 注意: 燃焼ポット内のペレットの量が多すぎる、ペレットが湿っている、または燃焼ポットが煤で給気穴が塞がれていると、点火段階が困難になります。このような状況があると、すぐに着火せず濃い白煙が発生し、場合によっては燃焼室内で爆発的な着火を引き起こす場合があります。爆発は防火扉のガラスを粉砕するほどの強さになる可能性があります。ですのでペレット燃料から濃い煙が大量に出る場合は、点火段階ではストーブの前には決して立たないように注意してください。

ただし、ストーブにはガラス破損のリスクを最小限に抑えるために必要な安全システムがすべて装備されています。

ストーブがすぐに着火しない主な原因は、灰掃除が不十分であるか、ペレットの品質が悪いか、点火ヒーターの劣化である場合があります。

5.3.3 通常運転

点火段階が完了するとすぐに、ストーブは通常の動作モードに入ります。

このフェーズでは、次の情報がラジコン装置に表示されます。

- 時刻は最初の行に表示されます
- 左側 2 行目に室温が表示されます。
- 3 行目に「WORK」という文字が表示され、その隣に設定された電力 (1 ~ 5) が表示されます。
- その時の運転パワーレベルは 4 行目の右下 (1~5 点減) に表示され、室温が設定温度に達すると「MODULATE」の文字も表示されます (該当項参照)。



通常の作業フェーズでは、次の操作を実行できます。

- ストーブの出力を 5 つのレベルから選択して設定します。パワーレベル設定は、「5」キー、「1」および「2」キーを使用して行われます。
- クロノサーモスタットパラメータを設定します (以下の対応するセクションを参照)。
- サウナ室の希望温度を 7°C~90°C の範囲で設定します。「1」キーで温度を設定し、「2」キーで温度を下げます。

運転段階では、燃焼ポットも定期的に掃除されます。約 1 時間ごとの定期的な間隔で、燃焼ポットお掃除モードが約 1 分間作動します。このお清掃モードでは、排気ファンは最大回転数で回転し、ペレットの供給量は最小限に抑えられます。これにより、燃焼ポット内の灰の堆積を吹き飛ばして

除去し、正しい給気と燃焼を保証するためのものです。 燃焼ポットの清掃段階では、ラジコンに「BRAZIER CLEANING」という文字が表示されます。

通常使用で燃焼ポット内にペレットが過剰に蓄積していることに気付いた場合は、すぐにストーブを消してサービスセンターにご連絡ください。 そのまま使い続けるとストーブが危険になる可能性があります。

5.3.4 室温によって変わる燃焼運转变化

ストーブには室温温度センサーが装備されており、お好みの温度に応じてパワーを調整できます。

室温センサーを正しく動作させるには、室温センサーが排気管から適当に離れていて、4.5 項の指示に従って取り付けられていることを確認してください。

ボタン「4」を押して室温を設定します。 ラジコンの下部に「SET ROOM TEMP」の文字が表示され、上部に設定温度の値が表示されます。

この値を変更するには、希望の温度（7°C ~ 90°C）に達するまで「1」キーと「2」キーを使用します。

温度が設定温度に達すると、ストーブは最小パワーレベルになり、ディスプレイの最終行に「MODULATE」という文字が表示されます。 このパワーダウン状態は、室温が設定温度以下に戻ったら解除し、再度燃焼レベルは上がります。 この場合、ストーブはユーザーが設定したパワー（1~5）に戻り、ディスプレイ上の「MODULATE」の文字が消え、標準の運転表示に戻ります。

5.3.5 燃焼ポットの自動クリーニング

作業モードでの通常動作中は、パラメータに設定された間隔で「BRAZIER CLEANING」モードが起動します。 この間、ラジコンに「BRAZIER CLEANING」という文字が表示され、ストーブの排気ファン回転数が上がり、燃焼ポットの炎が下がります。 この作業は、燃焼ポット内に灰が多く溜まるのを減らすのに役立ちます。

燃焼ポット自体の高さの半分を超えてポット内にペレットが過剰に蓄積していることに気付いた場合は、すぐにストーブを消してポット内の灰を掃除してください。

それでも問題がある場合は販売店にご連絡ください。

5.3.6 消火

ストーブの火を消すには、ボタン「3」を数秒押し続けます。

消火信号を受信すると、ディスプレイに「FINAL CLEANING」という文字が表示され、ストーブの完全な冷却を確保するために排気ファンが最低約 10 分間最高速度で動作し続けます。

注意: この段階では絶対に電源を切らないでください。 そうするとストーブに問題が発生し、その後の点火段階が失敗する可能性があります。

5.3.7 停電時

短時間の停電（10 秒未満）が発生した場合、ストーブは警報アラームなしで自動的に作動を再開します。

電源がそれ以上停電し、ストーブが運転モードになっている場合は「AL 1 - BLACK OUT」アラームが表示されます。 その場合ストーブは自動的に再起動しませんが、アラーム信号を手動で解除する必要があります。

6 MENU メニュー

ボタン「3」(MENU) を押すと、メニューにアクセスします。

これは、ボードの設定とプログラミングにアクセスできるようにするさまざまな項目とレベルに分かれています。技術的なプログラミングにアクセスできるメニュー項目は、アクセス キーによって保護されています。

ユーザーメニュー

次の表では、メニュー構造について簡単に説明します。この段落では、ユーザーが利用できる選択項目のみに焦点を当てています。

メニューを操作するには、次の一般規則に従ってください。

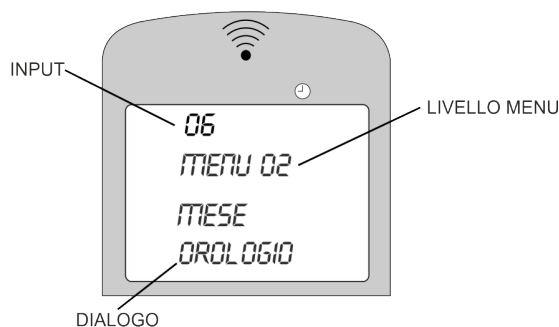
- 「7」キーを使用すると、選択したメニューまたはサブメニューに入ります (1 つ下のレベルに進みます)。
- 「3」キーを使用すると、逆の操作を実行し、現在のメニューまたはサブメニューを終了します (1 つ上のレベルに進みます)。
- 「1」および「2」キーを使用して、パラメータ (温度、時間など) の値を変更します。
- 「1」および「2」キーを使用すると、異なるメニューまたはサブメニュー間、または異なるパラメータ間を水平に移動できます。

6.2 Menu 02 「時計設定」

このメニューでは、現在の時刻と日付を設定できます。ボードにはリチウム電池が搭載されており、内部時計の自律性は 3 ~ 5 年以上です。

MENU に入ると、順番に設定できます。

- 01 曜日 (月曜日~日曜日)
- 02 時間 (0...23)
- 03 分 (0...59)
- 04 日 (1...31)
- 05 月 (1...12)
- 06 現在の年 (2000...2099)

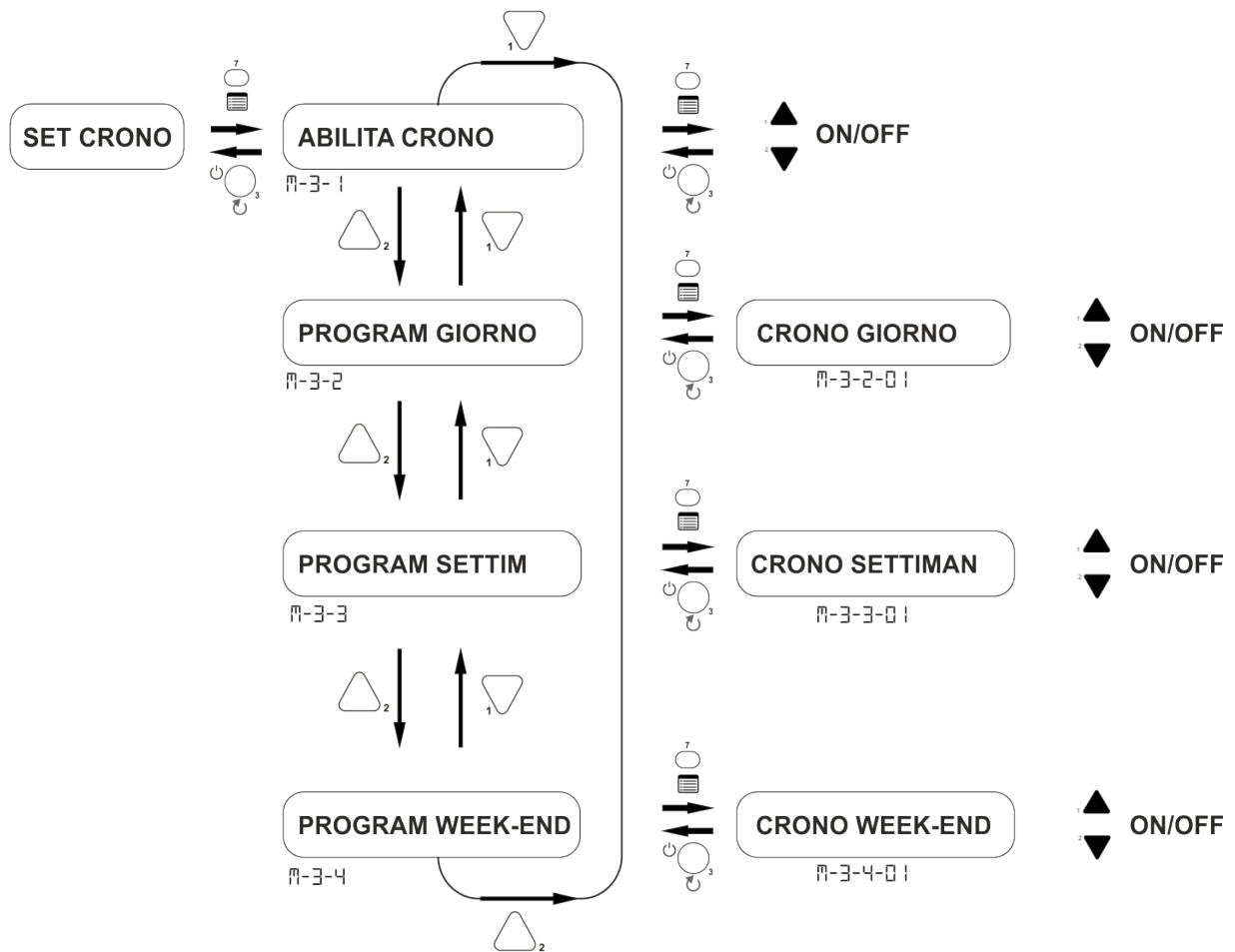


6.3 Menu 03 “タイマーセット”

このメニューを使用して、オンとオフの切り替えを有効にしてプログラムします。8 つの異なるプログラミングが可能であり、3 つのグループに分けられます。

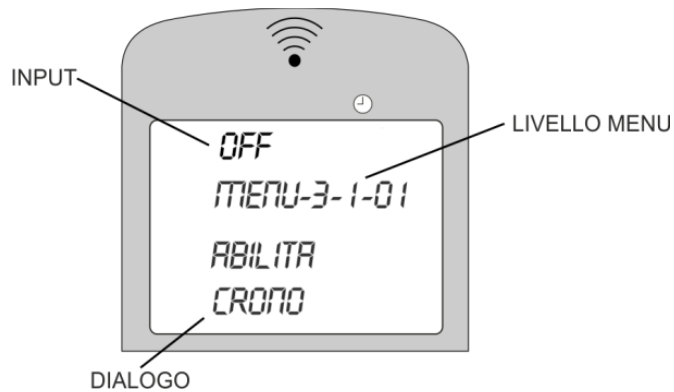
- i) デイプログラム: 毎日有効なオンとオフの 2 つの切り替え。
- ii) 週間プログラム: 希望に応じて曜日ごとにオン/オフを切り替える 4 つのスイッチ。
- iii) 週末プログラム: 土曜日と日曜日のみ有効な 2 つのオンとオフを切り替えます。

以下は、さまざまなメニュー レベルの図です。この点に関して、ボタン (7) でメニューに入り、ボタン (3) で前のメニューに戻り、ボタン (1) と (2) でメニューをスクロールし、値を変更することに注意してください。もう一度キー (1) と (2) を押します



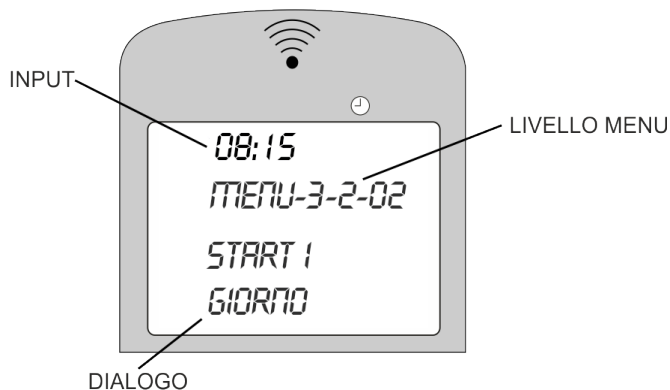
6.3.1 MENU 3-1 「タイマー設定を有効にする」

すべての タイマーサーモスタット 機能を全部有効または無効にできます。
設定が「off」の場合、設定されているすべてのプログラミングが無効になります。



6.3.2 Menu 3-2 “毎日プログラム設定”

毎日のタイマーサーモスタット機能を有効、無効設定できます。



最初のパラメータ (M-3-2-01) 「DAY CHRONO」を「On」に設定すると、2つのスイッチオンと2つのスイッチオフを設定できます。各パラメータについて、アクティブにしたい場合は「オフ」値、またはオンまたはオフの時間を設定できます。

Menu のレベル	選択	意味	入力数値 (時間)
M 3-2-02	START 1	点火時間	00:00-23:50 -OFF
M 3-2-03	STOP 1	消火時間	00:00-23:50 -OFF
M 3-2-04	START 2	点火時間	00:00-23:50 -OFF
M 3-2-05	STOP 2	消火時間	00:00-23:50 -OFF

6.3.3. Menu3-3 “毎週プログラム設定”

毎週のプログラミング グループには、オンに切り替える 4 回とオフに切り替える 4 回が含まれます。オンとオフのペアごとに、対応するコマンドのペアをアクティブにする曜日を決定できます。

最初のパラメータ M-3-3-01「WEEKLY TIMER」では、すべてのウィークリー タイマー設定を有効または無効にすることができます。

最初のパラメータ (M-3-3-01) 「WEEKLY TIMER」を「on」に設定すると、4つのオン時間と4つのオフ時間を設定できます。各パラメータについて、有効にしたい場合は「オフ」値を設定するか、オンまたはオフの時間を設定できます。オン時間とオフ時間の各ペアの後に、曜日に対応する7つのパラメーターがあります。これらの各パラメーターは、その曜日に対応するプログラミングをアクティブにするかどうかに応じて、「オン」または「オフ」に設定できます。(以下の表を参照)。

プログラム 1			
メニューレベル	選択	意味	入力数値 (時間)
M 3-3-02	START PROG 1	点火時間	00:00-23:50 -OFF
M 3-3-03	STOP PROG 1	消火時間	00:00-23:50 -OFF
M 3-3-04	MONDAY PROG 1	基準日	on/off
M 3-3-05	TUESDAY PROG 1		on/off
M 3-3-06	WEDNESDAY PROG 1		on/off
M 3-3-07	THURSDAY PROG 1		on/off
M 3-3-08	FRIDAY PROG 1		on/off
M 3-3-09	STURDAY PROG 1		on/off
M 3-3-10	SUNDAY PROG 1		on/off

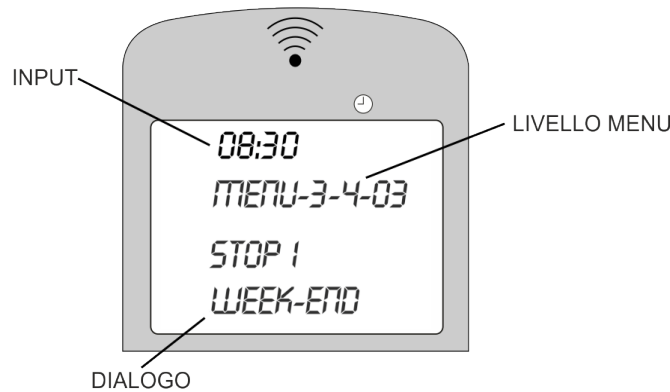
プログラム 2			
メニューレベル	選択	意味	入力数値 (時間)
M 3-3-11	START PROG 2	点火時間	00:00-23:50 -OFF
M 3-3-12	STOP PROG 2	消火時間	00:00-23:50 -OFF
M 3-3-13	MONDAY PROG 2	基準日	on/off
M 3-3-14	TUESDAY PROG 2		on/off
M 3-3-15	WEDNESDAY PROG 2		on/off
M 3-3-16	THURSDAY PROG 2		on/off
M 3-3-17	FRIDAY PROG 2		on/off
M 3-3-18	STURDAY PROG 2		on/off
M 3-3-19	SUNDAY PROG 2		on/off

プログラム 3			
メニューレベル	選択	意味	入力数値 (時間)
M 3-3-20	START PROG 3	点火時間	00:00-23:50 -OFF
M 3-3-21	STOP PROG 3	消火時間	00:00-23:50 -OFF
M 3-3-22	MONDAY PROG 3	基準日	on/off
M 3-3-23	TUESDAY PROG 3		on/off
M 3-3-24	WEDNESDAY PROG 3		on/off
M 3-3-25	THURSDAY PROG 3		on/off
M 3-3-26	FRIDAY PROG 3		on/off
M 3-3-27	STURDAY PROG 3		on/off
M 3-3-28	SUNDAY PROG 3		on/off

プログラム 4			
メニューレベル	選択	意味	入力数値 (時間)
M 3-3-29	START PROG 4	点火時間	00:00-23:50 -OFF
M 3-3-30	STOP PROG 4	消火時間	00:00-23:50 -OFF
M 3-3-31	MONDAY PROG 4	基準日	on/off
M 3-3-32	TUESDAY PROG 4		on/off
M 3-3-33	WEDNESDAY PROG 4		on/off
M 3-3-34	THURSDAY PROG 4		on/off
M 3-3-35	FRIDAY PROG 4		on/off
M 3-3-36	STURDAY PROG 4		on/off
M 3-3-37	SUNDAY PROG 4		on/off

6.3.4 Menu 3-4 “週末プログラム設定”

週末（土曜日と日曜日）にクロノサーモスタット機能を有効、無効、および設定できます。デイプログラムに関しては、有効化パラメーターと 2 組のオン時間とオフ時間があります。番組は前述の通り土日のみ実施となります。



おすすめ: 混乱や不要な起動およびシャットダウン操作を避けるため、何を実現したいのかが正確にわからない場合は、一度に 1 つのプログラムのみをアクティブにしてください。毎週のプログラムを使用する場合は、毎日のプログラムを無効にしてください。毎週のプログラムを使用する場合は、必ず週末のプログラムを無効にしておき、毎週のプログラムを無効にしてから週末のプログラムを有効にしてください。

6.4 Menu 04 “各国言語選択”

英語、イタリア語などの言語を選択できます。

6.5 Menu 06 “スタンバイモード”

このメニューでは、「STAND-BY」モードを有効または無効にすることができます（デフォルト設定は「OFF」です）。

スタンバイモードは、ストーブがオフになっているが、室温が設定値を下回るとすぐにオンに戻ることができる状態を示します。スイッチオフ遅延は 1' ~ 120' の値に設定できます。

室温が設定値を 2°C 超えたときにスタンバイモードがアクティブな場合、ストーブは最初に変調に入り、次に選択したスイッチオフ遅延時間の経過後、温度が設定値を下回らない場合はストーブのスイッチがオフになります。そしてスタンバイモードに入ります。

シャットダウン中、「WAIT FOR COOLING」という文字がディスプレイに表示されます。この書き込みは、再起動条件が整うまで残ります。

ストーブが外部サーモスタットによって制御されている場合、スタンバイモードを有効にすることで、スイッチのオンとオフをサーモスタットから直接制御できます。

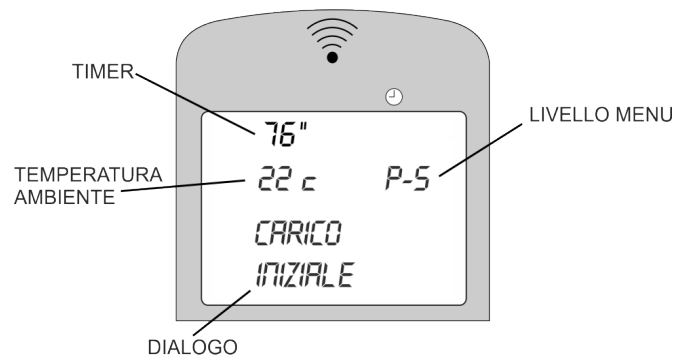
6.6 Menu 07 “ブザーモード”

「オフ」にすると、アラーム発生時に音響信号が無効になります。「オン」にすると、アラームが作動したときに音響信号も鳴ります。

6.7 Menu 08 “イニシャルロード”（ペレット初期充填）

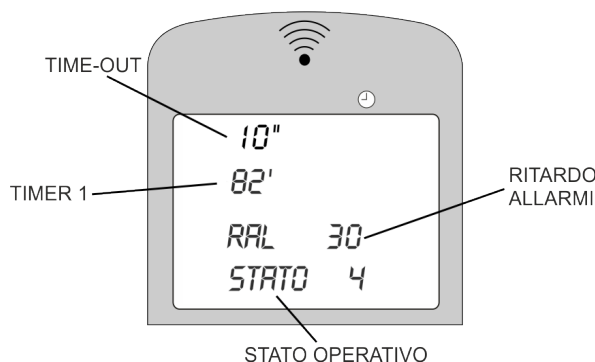
ディスプレイに「OFF」という文字が表示されたら、モデルに応じてさまざまな時間ペレットを事前にロードできます。

キー「1」を押して開始し、キー「4」を押して停止します。事前装填が完了したら、装填されたペレットを燃焼ポットから取り外します。



6.8 Menu 09 “ストーブステータス”（運転状態）

このメニューを使用すると、ストーブ内のプローブと変数のいくつかの値を報告することで、ストーブの瞬間的な状態を表示できます。4 ページが連続して表示されます。このメニューは専門技術者を対象としています。



6.9 Menu 10 “技術者用パラメータ設定”

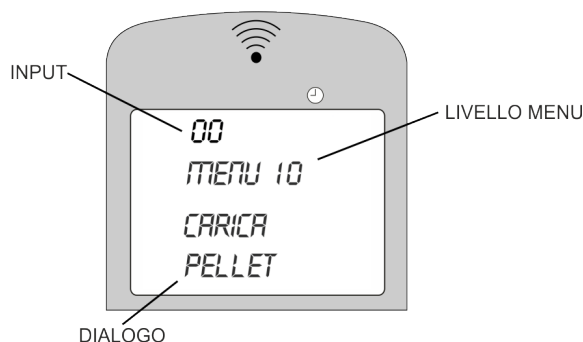
アクセスキーで保護されたこのメニューは、専門技術者向けです。

6.10 Menu 11 “TIPO PELLETT”

このメニューでは、すべてのペレット降下パラメータ（燃焼ポットに装填されるペレットの量）を同時に増減できます。

デフォルト値は 00 に設定されています。「1」および「2」キーを使用して、この値を -9 から +9 まで変更できます。

ユニットごとに、すべてのペレットの装填時間の値が 2.5% 増加または減少します。



6.11 Menu 12 “ドラフト調節”

このメニューを使用すると、すべての排煙パラメータ（ドラフト）を同時に増減できます。

デフォルト値は 00 に設定されています。「1」および「2」キーを使用して、この値を -9 から +9 まで変更できます。ユニットごとに排気ファン回転数の値が 2、5% ずつ増減します。

7 安全装置と警報器

安全性

注意: 動作中、ストーブの一部の部分 (ドア、ハンドル、セラミック部分) は高温になる可能性があります。

前に示した安全距離を必ず維持してください。

したがって、十分に注意し、必要な予防措置を講じ、常に指示に従ってください。

使用中にストーブの一部や出口パイプから煙が漏れた場合は、電源を切らずにすぐにストーブを消し、部屋の換気をしてください。その後、冷却してから漏れの原因を確認し、必要に応じて専門の技術者に連絡してください。

ストーブには、安全な操作を確保するために介入するいくつかの装置が装備されています。

注意: 安全装置は人、動物、物への損傷の危険を排除する機能を持っています。改ざんや権限のない担当者の介入により、セキュリティが侵害される可能性があります。

ストーブに装備されている安全装置は次のとおりです。

7.1.1 排気負圧センサー

このセンサーは排煙ダクトに接続されています。ダクト自体の内部のくぼみを制御し、煙道の閉塞を監視し、ストーブを完全に安全に使用できるようにする機能があります。

活性化すると

排気ダクト内の正常な機能条件が変更された場合 (設置不良、排気ダクト内の障害物または妨害物の存在、メンテナンスの不注意、持続的な風などの不利な気象条件など...)、減圧センサー (減圧計) が電気回路を遮断します。ペレットオーガへの供給が遮断され、火鉢へのペレットの供給が遮断され、ボードに警報信号が送信されます。

アラームは、ストーブの詰まり、燃焼不良、または毎年ストーブを掃除しないことによって発生する可能性があります。

アラームが作動すると、「AL 8 – NO DEPRESS」という文言がディスプレイに表示されます。

7.1.2 サウナ室温度センサー

ストーブには手動リセットバルブサーモスタットが装備されており、ストーブ、ペレットタンク、ひいては構造全体を過度の温度変化から保護する機能があります。

活性化すると

ペレット装填チューブが 85°C のしきい値に達すると、サーモスタットがオーガへの電力供給を遮断し、燃焼ポットへのペレットの供給がブロックされ、ボードに警報信号が送信されます。

「AL 7 – **Sicurez Termica**」という文言がディスプレイに表示されます。

7.1.3 排煙温度センサー

煙プローブは電子基板に直接接続されており、ストーブから出る煙の動作温度を常に監視しているため、ストーブを完全に安全に使用できます。

使い方

ヒューム温度が事前に設定された最初の温度制限を超えると、ボードは変調モードに切り替わります。ディスプレイに「MODULE / MAX SMOKES」という文字が表示されます。

変調に切り替えても煙の温度が上昇し続け、あらかじめ設定された 2 番目の安全限界を超えると、ストーブは警報モードに切り替わります。ペレットの流れが中断され、ヒューム抽出速度が最大になります。

AL 3 – 「SMOKE TEMP」という文字がディスプレイに表示されます。

ストーブは、スモークプローブが一時的および/または誤ってシートから外れたり、コネクタが電子基板上に正しく配置されなかったり、何らかの理由でプローブが故障したりした場合に、スモークプローブの機能を常にチェックします。この問題は、ディスプレイ AL 2 – 「SMOKE PROBE」の文言によって示されます。

アラーム

動作異常が発生した場合、ボードが介入し、アラームの種類に応じて異なるモードで動作して異常を知らせます。次のアラームが予想されます。

アラームの発生源	ディスプレイ表示
主電源切れ	AL1 BLACK-OUT
排気温度センサー	AL2 SONDA FUMI
過度の排気温度	AL3 TEMP FUMI
排気ファンの故障	AL4 ASPIRAT GUASTO
点火失敗	AL5 NO ACCENS
作業段階ではスイッチを切る	AL6 NO PELLETT
安全サーモスタット	AL7 SICUREZZA TERMICA
オーガ安全不圧センサースイッチ	AL8 MANCA DEPRESS

何らかの警報状態が発生すると、ストーブが直ちに停止します。

アラーム状態を終了するには、「FINAL CLEANING」という文字が表示されるまで、常にキー「4」を押してください。

発生したアラームの種類に応じて他の操作も必要になります。

一定時間（数時間）以内にアラーム状態を解除しないと、アラームがストーブのメモリに記録され、ディスプレイに「アラームメモリ」という文字が表示されます。この状態を終了するには、上記と同様にキー「4」を押します。

AL 1 - Black-out

このアラームは、ストーブが電源から切り離されたときに作動します。

介入方法

オフボタン (4) を数分間押して、ストーブを停止させます。

AL 2 - Sonda fumi

この警報はスモークプローブの破損を知らせます

介入方法

- オフボタン (4) を数分間押して、ストーブを停止します。
- 燃焼ポットに残っているペレットの燃焼が終了するまで待ってください。
- 必要に応じて、サポート センターに連絡してプローブを交換してください。

AL 3 - Temp fumi

このアラームは、ヒューム出口温度が過剰であることを示します。

介入方法

- オフボタン (4) を数分間押し、ストーブを停止します。
- 火鉢に残っているペレットの燃焼が終了するまで待ってください。
- 安全性が介入した原因を確認し、除去してください。

AL 4 - Aspirat guasto

このアラームは、制御基板が排煙モーターの回転数を読み取ることができないことを知らせます。これは、エンジンの故障、またはエンジンにある rpm リーダー (エンコーダー) とボード間の接続の欠陥によって作動する可能性があります。

介入方法

オフボタン (4) を数分間押し、ストーブを停止させます。

ストーブを再びオンにしてみてください。

問題が解決しない場合は、サービス センターに連絡してください。

AL 5 - No accens

このアラームは点火の失敗を示します。点火が行われないうまま点火段階 (約 20 分) 中に設定された最大待機期間を超えると、アラームが作動します。(点火を参照)

AL 6 - No pellet

このアラームは、通常のストーブの動作中に火鉢に火がないことを示します。主な原因はタンク内のペレット切れ、ペレットスクリュウの詰まりです。

介入方法

- オフボタン (4) を数分間押し、ストーブを休止状態にします。
 - 火鉢に溜まっている未燃のペレットをすべて空にします。
 - タンク内のペレットがなくなった場合は、ストーブに燃料を補給して再始動してください。ストーブが完全に冷めるまでペレットを挿入しないでください。ペレットの補充は、常にストーブをオフにするか、ストーブに火を付けた状態で行う必要があります。
 - ペレットスクリュウが詰まっている場合は、タンクを空にし、スクリュウ内にある異物を取り除く必要があります。その後、ペレットを補充し、ストーブを再起動します。
- オーガーの詰まりが繰り返し発生する場合は、販売店に連絡してください。

AL 7 - Sicurezza termica

この警報はストーブボイラーにある安全サーモスタットの介入によって作動します。

介入方法

- オフボタン (4) を数分間押し、ストーブを休止状態にします。
- 火鉢に残っているペレットの燃焼が終了するまで待ってください。
- ストーブの後部の電源ソケットの下にある安全サーモスタットをリセットします (図 14 を参照)。

リセットを続行する前に、ストーブの電源がオフになっていて、完全に冷えていることを確認してから、次の手順を実行してください。

- ストーブの背面にあるキャップを外します (図 14 を参照)。
- 赤いボタンを軽く押します。

- キャップをねじ込んで元の位置に戻します。
- 火鉢を掃除した後、ボタン 4 を押してコンロを再起動します。

AL 8 - Manca depress

このアラームは、負圧センサーの介入によって作動します。

介入方法

- オフボタン (4) を数分間押して、ストーブを休止状態にします。
 - 火鉢に残っているペレットの燃焼が終了するまで待ってください。
 - ストーブが冷めるまで待ってから、安全装置が介入した原因を確認し、取り除いてください。最後に、火鉢を掃除した後、ON/OFF ボタン (4) を押してコンロを再起動します。
- アラームが繰り返し鳴る場合は、販売店に電話してください。**

サービス点検時間

この警告は、一定時間の操作後にリモコンに表示されます。

ストーブの動作を妨げるものではありませんが、製品の特別なメンテナンス作業を行うには C.A.T に連絡する必要があると警告しています。(8.13項を参照)

8 警告とメンテナンス

すべてのメンテナンス作業（掃除、交換など）は、火を消してストーブが冷えた状態で行う必要があります。また、いかなる場合でも研磨剤を使用しないでください。

注意：掃除を怠ると安全なストーブ運転に影響します

8.1 ドアを開けるとき

動作中はドアを閉めたままにしておく必要があります。メンテナンスや通常の清掃を行う場合は、ストーブが停止していて、完全に冷めているときのみドアを開けてください。

8.2 灰受けの掃除

2 日ごとに灰受けをチェックして、空にする必要があるかどうかを確認してください。燃焼残留物が燃焼ポットのサポートに到達するのを防ぐために、灰受けを定期的に空にする必要があります。灰は蓋がついた金属製の容器に入れる必要があります。灰が完全に消えるまで、密閉容器は不燃性の台座または地面の上に、可燃物から十分に離れた場所に置いてください。

注意：灰は残り火を長時間燃え続けさせます。

8.3 燃焼ポットの掃除

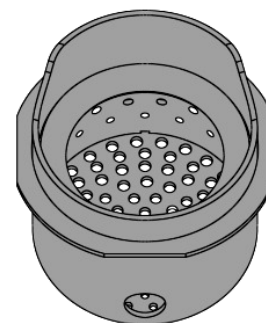
炎が赤い色を帯びたり、黒煙を伴って弱くなったりする場合は、ストーブが正常燃焼していなく、灰の堆積物や付着物があることを意味している可能性があります。

2 日ごとに燃焼ポットを台座から持ち上げ取り外します。そして、尖った道具を使って詰まった穴の堆積物を取り除くことに注意を払いながら、灰や付着物を取り除きます。

この操作は、特に異なる品質のペレットを使用する場合、各点火の最初の数回に特に必要です。この操作の頻度は、使用頻度と燃料の選択によって決まります。

燃焼ポットの支えを点検し、灰を取り除くこともお勧めします。

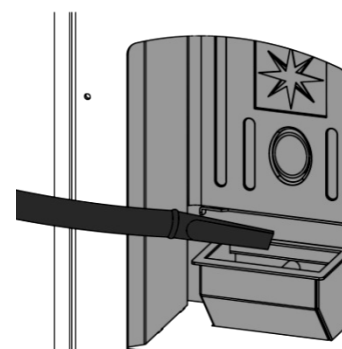
注意：ストーブに点火する前に、燃焼ポットがデフレクターに向かって押し戻され、点火ヒーターのパイプが燃焼ポットの対応する穴に挿入されていることを確認してください。



8.4 燃焼炉の掃除

燃焼室内に溜まった灰を掃除機で取り除き、毎週燃焼室を掃除してください。

注：掃除には、ペレットストーブ灰専用の掃除機が必要です。



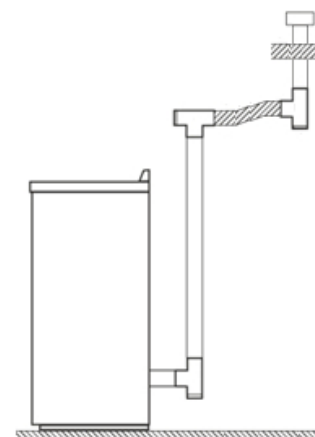
8.5 ストープ内煙道の掃除

通常、ストーブが正常に機能するためには、年に 1 回 (できればシーズンの初めに)、スモークチャンバーの特別な清掃をする必要があります。この作業の頻度は、使用するペレットの種類と使用頻度によって異なります。

このクリーニングを実行するには、販売設置業者に連絡することをお勧めします。

8.6 排気管システムの清掃

動作条件について適切な経験を積むまでは、このメンテナンスを少なくとも毎月実行することをお勧めします。T フィッティング キャップを取り外し、ダクトを清掃します。必要に応じて、少なくとも最初の数回は、設置業者に連絡してください。



8.7 金属部品およびセラミックスの洗浄

ストーブの金属部分を掃除するには、水で湿らせた柔らかい布を使用してください。金属およびセラミック部品をアルコール、シンナー、ベンジン、アセトン、またはその他の脱脂物質で洗浄しないでください。

これらの物質を使用した場合、当社は一切の責任を負いません。

金属部品の色調に変化がある場合は、ストーブの不適切な使用が原因である可能性があります。

8.8 ガラスの掃除

ドアガラスは、シンナーなどのアンモニアベースで非腐食性の脱脂剤を使用して冷めているときに洗浄してください。ストーブを傷める可能性があるため、腐食性物質がストーブの塗装に触れないようにしてください。清掃前にガラスが熱い場合は、ガラスが冷めるまでドアを開けたままにしておく必要があります。

8.9 ガラスの破損

ストーブには、750°Cの熱に耐える厚さ 5 mm のセラミックガラスが装備されています。ガラスは強い衝撃や不適切な使用によってのみ破損する可能性があるため、ドアをバタンと荒っぽく閉めたり、固いものをガラスをぶついたりしないでください。万が一破損した場合は、ガラスをオリジナルのスペアパーツと交換してください。

交換するには、販売設置業者にお問い合わせください。

8.10 排気ファンの掃除

注意: すべてのクリーニングおよび/またはメンテナンス作業は感電防止のため電源をオフにしてください。

ストーブには外側に排気ファンが装備されています。ファンブレードにほこりや灰が多く付着すると、アンバランスが生じ、動作中に騒音が発生するため、少なくとも年に一度はファンを清掃する必要があります。

この作業にはストーブの一部の部品を分解する必要があるため、ファンの清掃は販売設置業者または経験のある業者のみに依頼してください。

8.11 ストープを長期間使わないとき

シーズン最後の使用后、以下のことに注意してください。

- タンクとオーガーからペレットをすべて取り外します。
- 燃烧ポット、サポート、燃烧室、灰受けをきれいに掃除してください。
- 排気管システムの灰を慎重に清掃します。。
- 電源コードを抜いておきます。
- 排気管から侵入する湿気によって内部隔壁が錆びるのを防ぐため、ドアを半開きにしておきます。

8.12 通常および臨時メンテナンス

これらの操作は、販売設置業者が少なくとも年に一度スケジュールする必要があり、製品の効率を確保し、安全な操作を保証するために必要です。

- 燃烧室と熱交換器をきれいに洗浄します。
- 排気ファンの洗浄、排気管の分解と洗浄、必要な場合は新しいシリコンに交換。
- ガスケットのシールを検査および確認し、必要に応じて交換し、シリコンを塗布します。
- タンクを空にしてペレットの粉を掃除する。
 - 電気部品および電子部品の制御。
 - 負圧センサーとゴムホースの清掃とチェック。
- 消耗しやすい部品を確認し必要があれば交換します：燃烧ポット、点火ヒーター、灰受けなど。



株式会社 NISHIMURA TRADING (ニシムラトレーディング)
〒669-1221 兵庫県宝塚市波豆湯谷掛 17
〒621-0033 京都府亀岡市稗田野町佐伯大日堂17(ショールーム)
www.ntitalia.com email: info@ntitalia.com



Dasa-Rägister
EN ISO 9001 (2000)
IQ-0502-09

www.laminnox.com